

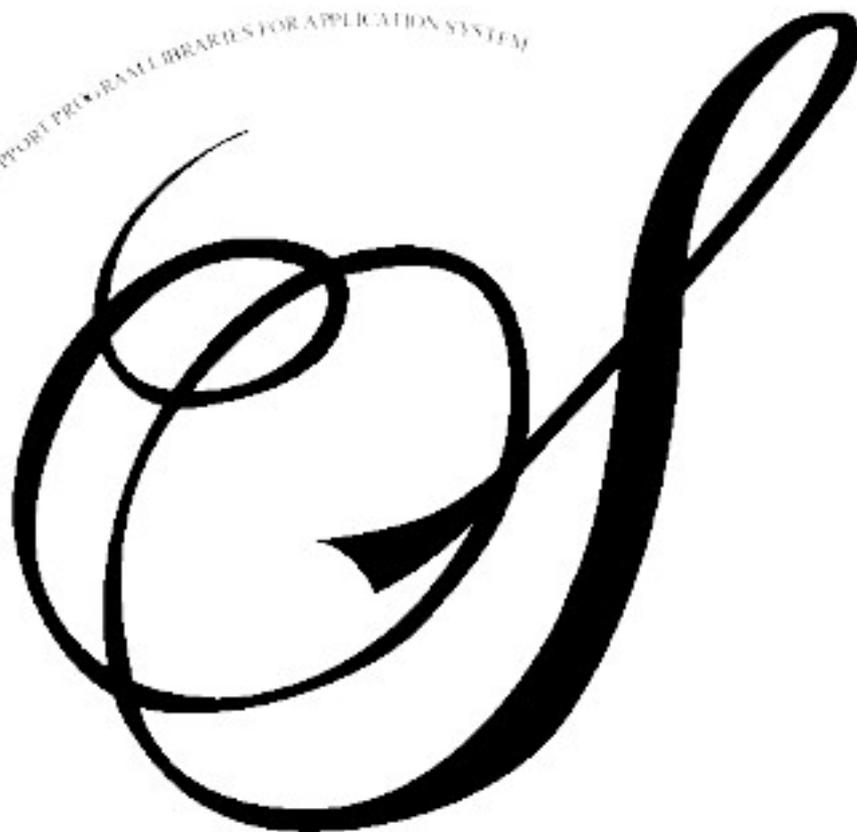
FUJITSU Software

SIMPLIA VF-FILECOMP

ユーザーズガイド

(ファイル比較ツール)

SIMPLIA DEVELOPMENT & MAINTENANCE SUPPORT PROGRAM LIBRARIES FOR APPLICATION SYSTEM



FUJITSU



Windows版
FUJITSU Software
SIMPLIA VF-FILECOMP V60L44
オンラインマニュアル

第 1.2 版

はじめに

SIMPLIA VF-FILECOMPは、2つのファイル、またはフォルダを比較し、相違を検出するツールです。比較するファイルの種別としては、テキストファイル、バイナリファイル、CSVファイルがあります。また、比較結果は、保存することができるので、何度でも表示することができます。

ヘルプを読むために

各オペレーティングシステムでサポートする最新版のInternet Explorerを推奨します。

輸出管理規制について

本オンラインマニュアルを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

登録商標について

本オンラインマニュアルで使われている登録商標及び商標は、以下のとおりです。
- Microsoft、Windows、Visual Studio、Visual BasicおよびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

略記について

本オンラインマニュアルでは、各製品を次のように略記しています。

「Windows(R) 10 Home」または、 「Windows(R) 10 Pro」、 「Windows(R) 10 Enterprise」、 「Windows(R) 10 Education」	→	「Windows 10」
「Windows(R) 8.1」または、 「Windows(R) 8.1 Pro」、 「Windows(R) 8.1 Enterprise」	→	「Windows 8.1」
「Windows(R) 7 Home Premium」 または、 「Windows(R) 7 Professional」、 「Windows(R) 7 Enterprise」、 「Windows(R) 7 Ultimate」	→	「Windows 7」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter」 または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Essentials」	→	「Windows Server 2019」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter」 または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Essentials」	→	「Windows Server 2016」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter」 または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard」、	→	「Windows Server 2012」 または、 「Windows Server 2012 R2」

「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Essentials」 、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation」		
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter」 または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard」 、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials」 、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation」	→	「Windows Server 2012」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter」 また は、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard」 、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise」 、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation」	→	「Windows Server 2008」 または、 「Windows Server 2008 R2」
「Windows 10」 または、 「Windows 8.1」 、 「Windows 7」 、 「Windows Server 2019」 、 「Windows Server 2016」 、 「Windows Server 2012」 、 「Windows Server 2012 R2」 、 「Windows Server 2008」 、 「Windows Server 2008 R2」	→	「Windows」

背景

テスト工程では、テストした結果の検証が必要です。検証の手段の1つとして、テスト実行前と実行後のファイルの突き合わせがあります。

現状は、ファイルのダンプを出力して、手作業でデータの違いを見つけ、実行結果が正しいことを判断します。ただし、この方法では、テスト対象の実行結果位置がどこであるかを目検する必要があります。テストを何回も繰り返す場合は、大変時間が掛かり、とても効率的とは言えません。

開発目的

SIMPLIA VF-FILECOMPは、データを書き換える前のファイルと書き換えた後のファイルの内容を比較し、画面に表示することができます。

次のような場面でご使用になれます。

- 更新系プログラムの実行結果を検証したい。
更新系プログラムの実行前と実行後のデータを突き合わせて、実行結果が正しい値になっているか確認できます。
- 仕様変更に伴うデータ内容の結果を検証したい。
プログラムの仕様変更に伴い、変更した箇所が正しい値になっているかを確認できます。
- システム移行に伴うデータ内容の結果を検証したい。
プログラムを旧システムより移行した場合に、旧システムのデータと新システムのデータを突き合わせて、データ内容に変更がないか、または、正しく移行できているかを確認できます。
- テキストファイルの修正箇所を確認したい。
過去の資産と現在の資産を突き合わせ、テキストファイルの修正箇所を確認できます。

比較の単位と種類

◆比較の単位

SIMPLIA VF-FILECOMPでは、以下の単位で比較を行います。

項目	内容
ファイル単位	指定する2つのファイルの比較を行います。 比較時に起動される「比較条件設定ウィザード」で比較条件を設定し、比較を行います。
フォルダ単位	指定する2つのフォルダ内に存在するファイルの比較を行います。 2つのフォルダ内に同一ファイル名が存在する場合、そのファイルに対しファイル単位の比較を行います。 同一ファイル名が存在しない場合は、全て不一致として出力されます。同一ファイル名に対する比較の種類（バイナリ比較）は、事前に「環境設定」「拡張子毎の比較条件設定」で、拡張子毎に設定する必要があります。ただし、同一拡張子で、比較の種類を区別することはできません。

◆比較の種類

SIMPLIA VF-FILECOMPでは、以下の種類の比較を行います。

項目	内容				
テキスト比較	<p>ソースファイルや文章ファイルなどテキストファイルの比較を目的とし、変更箇所の特 定を支援するための以下の特徴を持ちます。 比較的小規模な資産を想定しています。（最大5Mバイト程度間まで）</p> <ul style="list-style-type: none">差異部分を視覚的に捉えやすい。 （変更/追加/削除が色分けして表示される） <p>以下の比較を実現します。</p> <table border="1"><tr><td>テキスト</td><td>テキストファイルの比較を行い、行単位に比較結果を出力します。</td></tr><tr><td>COBOL資産</td><td>COBOL表記に従い、行単位に比較結果を出力します。 （行番号、注記を意識した比較を行います。）</td></tr></table>	テキスト	テキストファイルの比較を行い、行単位に比較結果を出力します。	COBOL資産	COBOL表記に従い、行単位に比較結果を出力します。 （行番号、注記を意識した比較を行います。）
テキスト	テキストファイルの比較を行い、行単位に比較結果を出力します。				
COBOL資産	COBOL表記に従い、行単位に比較結果を出力します。 （行番号、注記を意識した比較を行います。）				
バイナリ比較	<p>非文字データを含むバイナリデータの比較を目的とし、テストデータの検証作業などの 利用を想定した以下の特徴を持ちます。 小規模～大規模資産を想定しています。（最大10GBまで）</p> <ul style="list-style-type: none">レコードレイアウト(項目)を意識した比較が可能。同一キー比較機能を利用した突合せ処理が可能。 （変更/追加/削除レコードの特定が可能。） <p>以下の比較を実現します。</p> <table border="1"><tr><td>バイナリ</td><td>バイナリ比較として、バイト単位、改行単位での比較結果を出力します。</td></tr><tr><td>CSV</td><td>区切り文字、引用符文字からフィールド単位の比較を行います。</td></tr></table>	バイナリ	バイナリ比較として、バイト単位、改行単位での比較結果を出力します。	CSV	区切り文字、引用符文字からフィールド単位の比較を行います。
バイナリ	バイナリ比較として、バイト単位、改行単位での比較結果を出力します。				
CSV	区切り文字、引用符文字からフィールド単位の比較を行います。				

コマンド - [ファイル]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 比較(C) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目	説明
ファイル比較(F)	ファイル単位の比較を実行します。
フォルダ比較(L)	フォルダ単位の比較を実行します。
開く(O)	ファイルを開きます。
閉じる(C)	ファイルを閉じます。
比較条件ファイル指定比較(M)	フォルダ内の比較条件ファイルを連続して実行します。
上書き保存(S)	作業中のファイルを、上書きして保存します。
名前を付けて保存(A)	作業中のファイルをファイル名を付けて保存します。
印刷プレビュー(V)	比較結果ファイルを印刷する場合の、印刷イメージを表示します。
印刷設定(U)	印刷時の設定をします。
印刷(P)	比較結果ファイルを印刷します。
(最新のファイル名) 比較結果ファイル名1、2・・・	以前利用した比較結果ファイル名または比較条件ファイル名が表示されます。 該当するファイル名を選択するとそのファイルを開きます。
SIMPLIA VF-FILECOMPの終了(X)	SIMPLIA VF-FILECOMPを終了します。

コマンド - [表示]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 比較(C) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目	説明
ツールバー(T)	ツールバーの表示または非表示を切り替えます。
ステータスバー(S)	ステータスバーの表示または非表示を切り替えます。
詳細情報(J)	比較結果に対する詳細な情報を表示します。
16進数表示(H)	表示されたデータを16進数で表示します。
前の不一致(B)	選択された不一致行の前の不一致部分に移動します。
次の不一致(N)	選択された不一致行の次の不一致部分に移動します。
比較結果のフォントサイズ(X)	比較結果画面のフォントサイズを、「大」「中」「小」で選択します。

コマンド - [比較]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 比較(C) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目	説明
比較条件設定(S) 比較(C)	比較条件を設定します。 すでに比較された結果を再度比較し、比較結果ファイルを置き換えます。実行後、結果ファイルは一旦削除されますので、結果ファイルは必ず保存してください。
別ウィンドウで比較(V)	比較処理を開始します。新規比較結果ファイルを表示します。

コマンド - [オプション]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 比較(C) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目	説明
環境設定(P)	動作環境を設定します。
COBOL言語資産からのフィールド情報抽出(A)	COBOL言語資産（登録集）から、フィールド情報を抽出します。

コマンド - [ウィンドウ]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 比較(C) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目	説明
重ねて表示(C)	ウィンドウを重ねて表示します。
並べて表示(T)	ウィンドウを並べて表示します。
アイコンの整列(A)	ウィンドウの下部にアイコンを整列します。
ウィンドウ名1、2・・・	指定したウィンドウを表示します。

コマンド - [ヘルプ]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 比較(C) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目	説明
VF-FILECOMP ヘルプ(H)	オンラインマニュアルを表示します。
バージョン情報(A)	バージョン情報を表示します。

ファイル比較の基本フロー

ファイルを比較する際の基本的な操作の流れを説明します。

1.VF-FILECOMPの起動

スタートメニューより「SIMPLIA VF-FILECOMP」を起動します。

2.環境設定

必要に応じてVF-FILECOMPでの動作環境の設定を行います。

- － [初期値の設定](#)
- － [印刷時の初期値設定](#)

3.比較条件設定

ファイル比較の比較条件設定を行います。また、ファイルメニュー内のファイル名履歴から比較条件ファイルを選択し、条件を読み込むことも可能です。

1) [比較条件設定ウィザードーファイル種別の選択](#)

ファイル種別と比較オプションを選択し、「次へ」ボタンを押下します。

2) [比較条件設定ウィザードーファイルの設定](#)

比較対象ファイルとレコード情報を設定します。

1)で比較オプションを選択していない場合は、「完了」ボタンが表示されます。「完了」ボタンを押下すると比較結果が表示されます。

1)で比較オプションを選択している場合は「次へ」ボタンが表示されます。「次へ」ボタンを押下します。

3) [比較条件設定ウィザードーフィールド指定比較](#)

フィールド(レコード内での比較範囲)を設定します。ファイル種別がCSVの場合は、必須となります。

1)で「同一キー比較」オプションを選択しない場合、次へボタンは表示されず「完了」ボタンが表示されます。

そのまま比較処理を実行する場合は、「完了」ボタンを押下します。比較結果が表示されます。

4) [比較条件設定ウィザードー同一キー比較](#)

同一キー(レコードの指定した部分が同じ値のもの)を設定します。

「完了」ボタンを押下すると比較結果が表示されます。

4.比較結果表示

比較条件設定後、比較結果を表示します。

ファイル種別がテキストの場合は、[比較ブラウザ](#)で比較結果を表示します。

ファイル種別がバイナリ、CSVの場合は、VF-FILECOMPで[比較結果](#)を表示します。

また、ファイルメニュー内のファイル名履歴から比較結果ファイルを選択し、表示させることも可能です。

5.比較結果の印刷

比較結果を印刷します。[印刷設定](#)を設定後、印刷を行ってください。

6.比較条件ファイル、比較結果ファイルの保存

比較処理で設定した比較条件は、比較条件ファイルとして保存することができます。比較条件ファイルを使用すると同一条件で何度でも比較することができます。また、比較処理の結果は、[比較結果ファイル](#)として保存できます。比較結果ファイルは何度でも表示することができます。

7.VF-FILECOMPの終了

VF-FILECOMPを終了します。

環境設定の方法 1

VF-FILECOMPの動作に関する環境設定を行います。フォルダ比較を行う場合は、[環境設定の方法 2](#)も参照してください。

■初期値の設定

比較処理に関する初期値の設定を行います。



No	項目	内容
(1)	初期フォルダの設定	比較条件ファイルや比較結果ファイルを保存するための初期フォルダを予め指定します。 インストール直後は、ユーザープロファイルのドキュメントフォルダに設定されています。 作業用フォルダと同じフォルダを指定することはできません。
(2)	作業用フォルダの設定	比較処理を行うための作業用フォルダを予め指定します。 インストール直後は、フォルダは設定されていません。 フォルダが設定されていない場合、OSのTempフォルダが使用されます。 初期フォルダと同じフォルダを指定することはできません。
(3)	表示するウィンドウ数	比較結果画面のウィンドウへの表示を設定します。 「制限する」を指定した場合、ウィンドウ数は10個までとなります。
(4)	比較結果のフォントサイズ	比較結果画面のフォントサイズを「大」「中」「小」から選択します。
(5)	横スクロール幅の設定	比較結果表示域の横スクロール幅を1～10の範囲で指定します。 当設定値は、利用者毎にレジストリに格納されるので、ツール起動時に毎回設定する必要はありません。
(6)	比較結果ファイルの出力	ファイル比較の結果が不一致なしの場合、比較結果ファイルを出力するかを指定します。 設定し、不一致なしの結果になった場合は、初期フォルダに比較条件ファイル名の比較結果ファイルを作成します。比較条件ファイルが保存されていない場合は、「無題」の比較結果ファイルを作成します。

[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
- 2) タブ「初期値の設定」を選択します。
- 3) 初期フォルダ名を指定します。
- 4) 作業用フォルダ名を指定します。
- 5) 表示するウィンドウ数を制限するかを指定します。
- 6) 比較結果のフォントサイズを設定します。
- 7)

横スクロール幅を指定します。スピンボックスを使用すると数値が上下します。

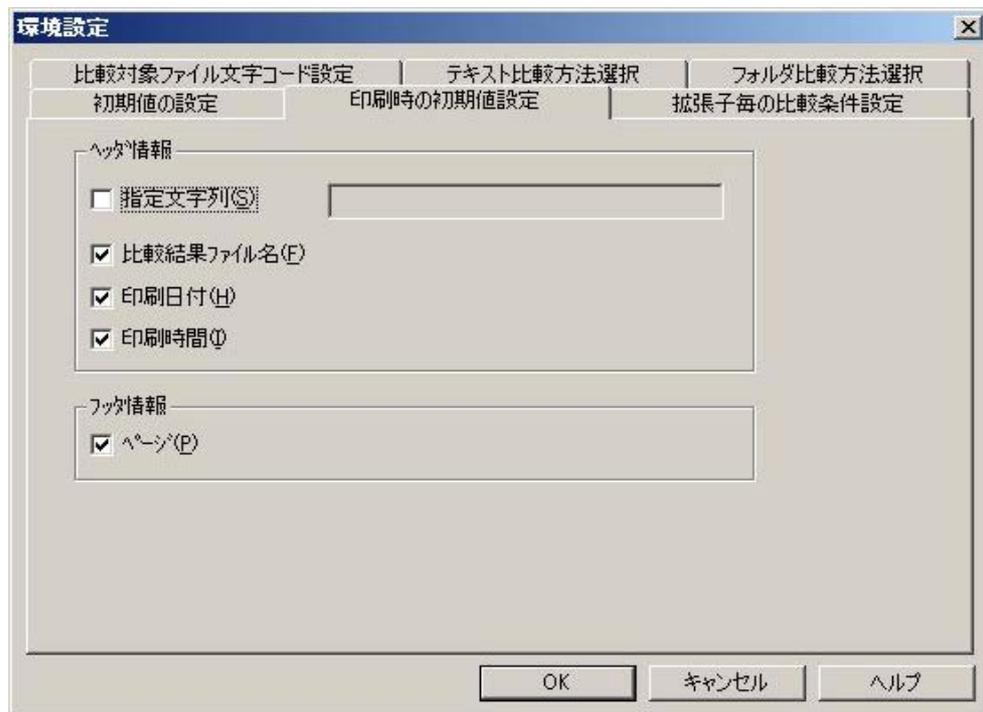
8) 不一致がない場合でも、比較結果ファイルを出力するかを指定します。

9) 初期値の設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。

* 画面項目(3)から(6)はファイル比較のファイル種別バイナリ、CSVの場合のみ有効です。

■印刷時の初期値設定

ファイル比較結果(バイナリ、CSV)を印刷した際のヘッダーとフッターを設定します。



No	項目	内容
(1)	ヘッダ情報	ヘッダーへの表示情報を設定します。「指定文字列」には30バイトの文字の入力が可能です。
(2)	フッタ情報	フッターへの表示情報を設定します。

【操作手順】

1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。

2) タブ「印刷時の初期値設定」を選択します。

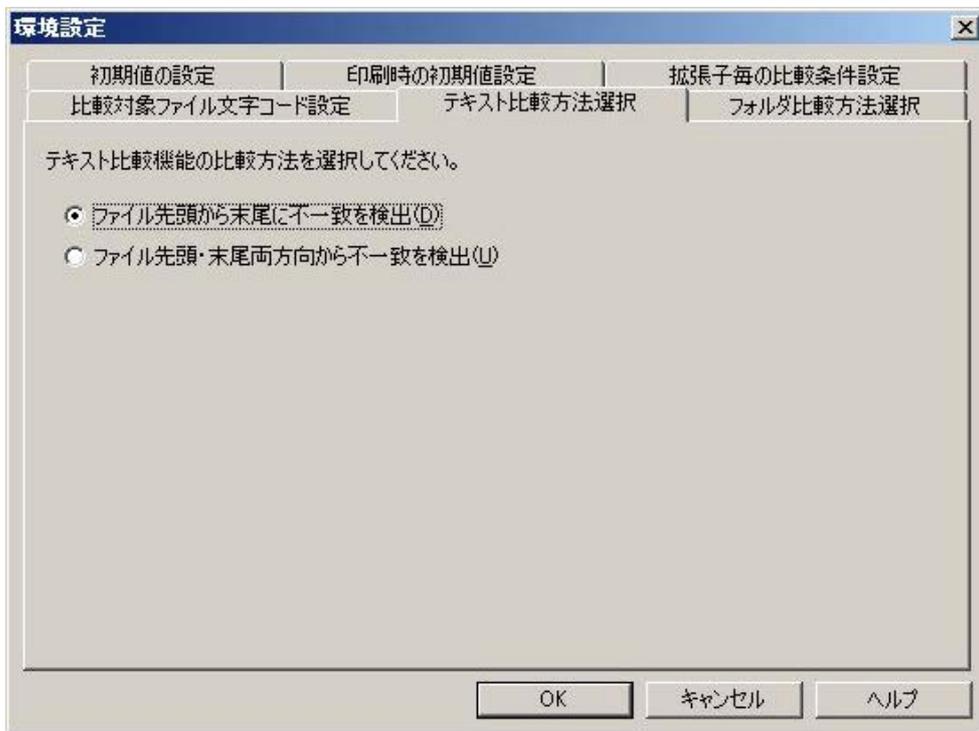
3) ヘッダー、フッターへの表示情報を設定します。

4) 設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。

* ここで設定されたヘッダとフッタ情報は、ファイル比較のファイル種別バイナリ、CSVの場合のみ有効です。

■テキスト比較時の初期値設定

ファイル比較(COBOL資産)とフォルダ比較(COBOL資産)の比較実行時の不一致検出方法を設定します。



No	項目	内容
(1)	ファイル先頭から末尾に不一致を検出(D)	ファイル先頭から一致行を検索し、一致行に挟まれる行を不一致行として検出します。
(2)	ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出(U)	ファイル先頭から検索された一致行とファイル末尾から検索された一致行に挟まれる行から不一致行を特定します。

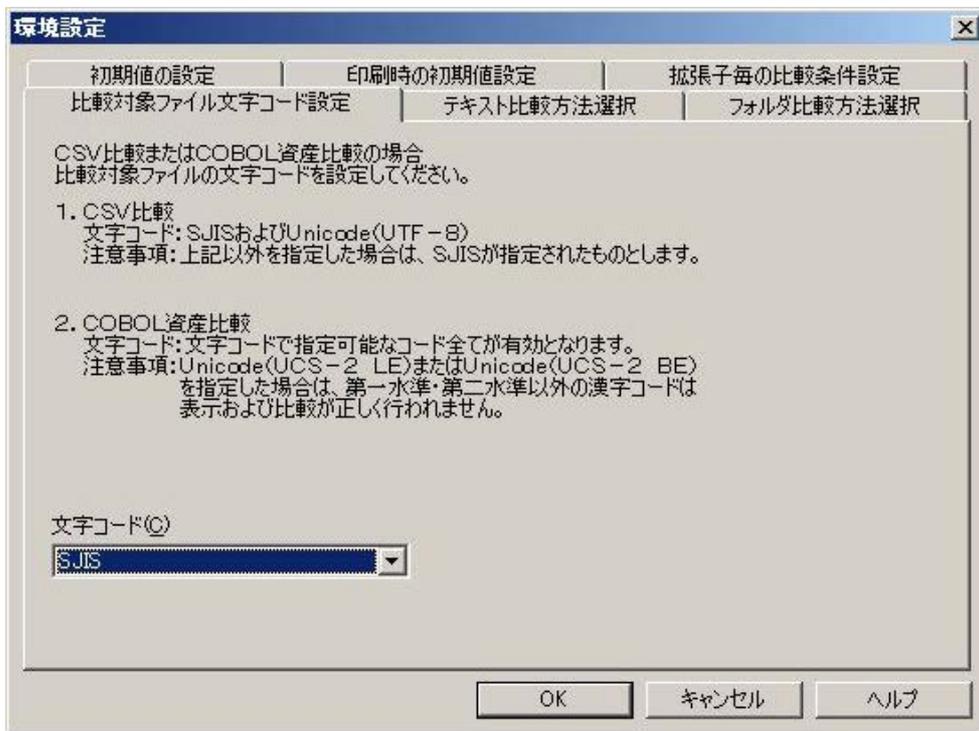
[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
- 2) タブ「テキスト比較方法選択」を選択します。
- 3) 比較方法を設定します。
- 4) 設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。

* ここで設定された比較方法は、ファイル比較のファイル種別COBOL資産およびフォルダ比較のCOBOL資産比較オプションを設定した場合のみ有効です。
 なお、ファイル比較のファイル種別テキストの場合は、比較方法は、「ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出」を指定されたものとして比較を行います。

■比較対象ファイル文字コード設定

ファイル比較(CSVファイル/COBOL資産)とフォルダ比較(COBOL資産)の文字コードを設定します。



No	項目	内容
(1)	文字コード(C)	<p>COBOL資産またはCSVファイルの文字コードを設定します。 設定可能文字コードは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - SJIS : COBOL資産またはCSVファイルの文字コードがSJISの場合に設定します。 - Unicode(UCS-2 LE) : COBOL資産の文字コードがUCS-2(Little Endian)の場合に設定します。 ※CSVファイルの場合、設定した文字コードは無効となり、SJISが設定されたものとします。 - Unicode(UCS-2 BE) : COBOL資産の文字コードがUCS-2(Big Endian)の場合に設定します。 ※CSVファイルの場合、設定した文字コードは無効となり、SJISが設定されたものとします。 - Unicode(UTF-8) : COBOL資産またはCSVファイルの文字コードがUTF-8の場合に設定します。

[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
- 2) タブ「比較対象ファイル文字コード設定」を選択します。
- 3) 文字コードを設定します。
- 4) 設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。

* ここで設定された文字コードは、ファイル比較のCSV比較またはファイル比較のファイル種別COBOL資産およびフォルダ比較のCOBOL資産比較オプションを設定した場合のみ有効です。

ファイル比較

ファイル比較を行うには、比較条件を設定します。比較条件設定ウィザードに従って設定を行ってください。

■比較条件設定ウィザード - ファイル種別の選択

比較対象のファイル種別を選択します。必要に応じて比較オプションを設定します。

No	項目	内容
(1)	テキスト(T)	改行コードのあるファイルを比較し、比較ブラウザで比較結果を表示します。 比較結果は比較対象ファイル全体を表示し、色で不一致個所を示します。
(2)	バイナリ(B)	レコード長、改行コードのあるファイルを比較します。 比較結果は不一致個所のみを表示します。
(3)	CSV(C)	CSVファイルを比較します。フィールド指定比較で、CSVの情報を設定する必要があります。オプションのフィールド指定比較は自動的にチェックがオンになります。 比較結果は不一致個所のみを表示します。
(4)	フィールド指定比較(F)	レコード中の処理対象部分を当ツールでは「フィールド」といいます。 フィールド指定比較を利用したい場合に使用します。また、 [COBOL言語資産からのフィールド情報抽出] 機能を利用すると、簡単にフィールドを設定することができます。 ファイル種別でバイナリを選択した場合、有効になります。CSVを選択した場合は必須になります。
(5)	同一キー比較(S)	レコード内の特定の個所に同一の文字、値がある個所だけを比較したい場合に使用します。 ファイル種別でバイナリ、CSVを選択した場合、有効になります。

[操作手順]

- 1)メニューの「ファイル」から「ファイル比較」を選択し、比較条件設定ウィザードを起動します。
- 2)「テキスト」、「バイナリ」、「CSV」からファイル種別を選択します。
- 3)必要に応じてオプションを設定します。ファイル種別で「CSV」を選択した場合は、「フィールド指定比較」は必須になります。
「次へ」ボタンを押下します。
- 4)[\[比較条件設定ウィザード - ファイルの設定\]](#)画面が表示されます。

○ポイント

比較する目的に応じて、比較オプションを選択します。

- 比較対象ファイル1、2をすべて表示させて不一致個所を確認したい → テキスト
- 比較して不一致レコードのみを確認したい → バイナリ
- レコード長を指定して比較したい → バイナリ
- CSVファイルを比較したい → CSV + フィールド指定比較(必須)
- レコード内の特定の項目を比較したい → バイナリ + フィールド指定比較
- レコード内の特定の項目がファイル1と2に存在するレコードを比較したい → バイナリ + 同一キー比較

ファイル比較のオプション

ファイル比較を行う際にオプションを設定することができます。

1.フィールド指定比較とは？

比較結果を分かりやすく表示するためにレコード中の処理対象部分を当ツールでは「フィールド」といいます。「フィールド」を設定することによって、レコード内のデータの個所を素早く特定したり、絞りこんで比較することが可能になります。

◆バイナリファイル

次のようなバイナリファイルでフィールド指定比較を行う場合を以下に記します。

ファイル1	ファイル2
0120030619サンプルA	0120030619サンプルA
0220030620サンプルA	0220030620サンプルB
0320030621サンプルA	0320030621サンプルC

ファイルには、「番号」、「年月日」、「データ」が表示されています。それぞれをフィールドとして設定します。

以下のように指定します。*コメントは任意です。

「開始位置」には、フィールドの先頭のバイトを指定します。「データ長」はフィールドのデータの長さを指定します。

詳細は[[比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較](#)]を参照してください。

フィールド1	フィールド2	フィールド3
「データ種別」：「バイナリ」	「データ種別」：「バイナリ」	「データ種別」：「バイナリ」
「開始位置」：「1」	「開始位置」：「3」	「開始位置」：「11」
「データ長」：「2」	「データ長」：「8」	「データ長」：「9」
「コメント」：「番号」	「コメント」：「年月日」	「コメント」：「データ」

ファイル2も同様に設定*し、比較を行います。比較結果は以下のように表示されます。

*ファイル1のフィールドをすべて選択し、ファイル2の「複写」ボタンを押下すると簡単に設定することができます。



フィールド3を絞り込んで比較します。

比較条件設定画面で、フィールド1と2のチェックをオフにして再度比較すると以下のように表示されず。



◆CSVファイル

次のようなCSVファイルと比較する場合を以下に記します。バイナリファイルの設定と異なる個所がありますので、ご注意ください。

ファイル1	ファイル2
1,20030619,"サンプルA"	1,20030619,"サンプルA"
2,20030620,"サンプルA"	2,20030620,"サンプルB"
3,20030621,"サンプルA"	3,20030621,"サンプルC"

ファイルには、「番号」、「年月日」、「データ」が表示されています。それぞれをフィールドとして設定します。

以下のように指定します。*コメントは任意です。

「開始位置」には、区切り文字で区切られた番号を指定します。すべてのデータを比較する場合、「開始位置」は連番になります。

詳細は[[比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較](#)]を参照してください。

フィールド1	フィールド2	フィールド3
「データ種別」：「数値」	「データ種別」：「数値」	「データ種別」：「文字列」
「開始位置」：「1」	「開始位置」：「2」	「開始位置」：「3」
「コメント」：「番号」	「コメント」：「年月日」	「コメント」：「データ」

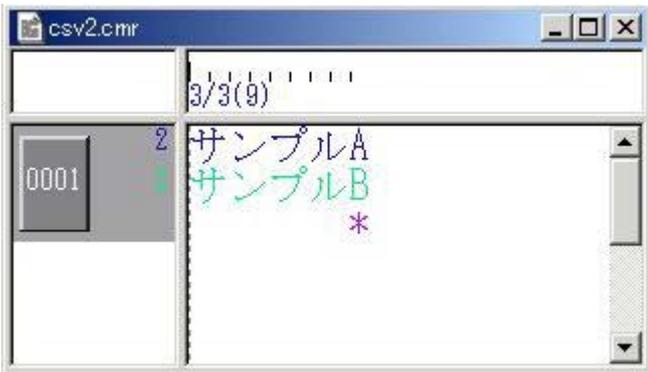
ファイル2も同様に設定*し、比較を行います。比較結果は以下のように表示されます。

*ファイル1のフィールドをすべて選択し、ファイル2の「複写」ボタンを押下すると簡単に設定することができます。



フィールド3のみを絞り込んで比較します。

比較条件設定画面で、フィールド1と2のチェックをオフにして再度比較すると以下のように表示されます。



2.同一キー指定比較とは？

「同一キー」とは、比較対象ファイル1と2で、レコードの同一個所に同じデータが存在する場合の項目を指します。

レコード内の変更した個所、変更していない個所が既に分かっている場合に有効です。

次のようなバイナリファイルを「同一キー比較」で行う場合を以下に記します。

ファイル1	ファイル2
-----	-----
0120030619サンプルA	0120030619サンプルA
0220030620サンプルA	0220030620サンプルB
0320030621サンプルA	0320030621サンプルC
-----	-----
	0420030622サンプルD

同一キー比較では以下のように指定します。*コメントは任意です。

「開始位置」には、フィールドの先頭のバイトを指定します。「データ長」はフィールドのデータの長さを指定します。

詳細は[[比較条件設定ウィザード - 同一キー比較](#)]を参照してください。

同一キー

「データ種別」：
「バイナリ」

「開始位置」：「1」

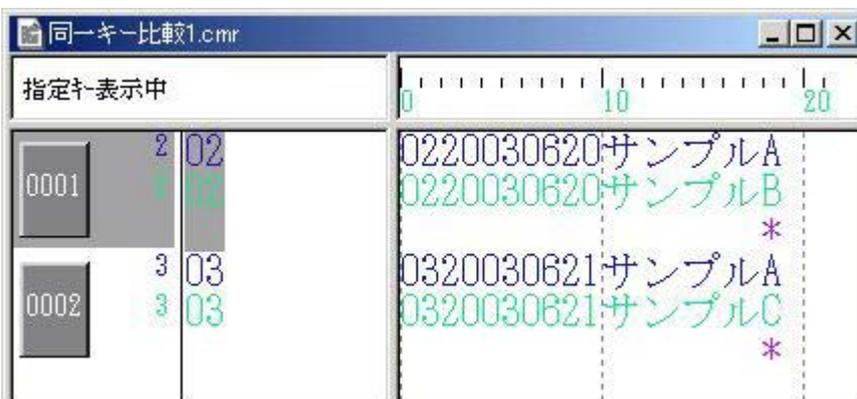
「データ長」：「2」

「コメント」：「番号」

ファイル2も同様に設定*します。比較結果は以下のように表示されます。

「同一キー」があった場合でも、レコードに不一致がない場合は比較結果として表示されません。

*ファイル1のフィールドを選択し、ファイル2の「複写」ボタンを押下すると簡単に設定することができます。



次に、「同一キー比較」のオプションの「同一キーが存在しないレコードも出力する」をチェックします。

比較結果は以下のように表示されます。

「同一キーが存在しないレコードも出力する」オプションで、ファイル2に追加されたレコードを知ることができます。

指定キー表示中	0	10	20
0001	2	02	0220030620:サンプルA
	3	03	0220030620:サンプルB
			*
0002	3	03	0320030621:サンプルA
	3	03	0320030621:サンプルC
			*
0003	4	04	0420030622:サンプルD
		**	*****

UNICODEファイルの比較について

ファイル比較 (CSVファイル/COBOL資産) とフォルダ比較 (COBOL資産) では、UNICODEファイルの比較が可能です。

なお、比較できない文字コードがありますので詳細は[注意事項](#)を確認してください。

■UNICODEファイルの文字コード指定

UNICODEファイルを比較する場合は、[環境設定](#)で文字コードを設定します。

なお、その他の指定は通常の比較と変わりはありません

■比較基準コードとは？

環境設定で指定した文字コードを基に、実際の比較処理で使用する文字コードを比較基準コードといいます。

なお、環境設定の文字コードと比較基準コードの関係は以下に示します。

ファイル種別	環境設定の文字コード	比較基準コード	備考
テキスト比較	SJIS	SJIS	テキスト比較では、COBOL資産比較のみ有効となり、環境設定の文字コードと同一コードを比較基準コードとして設定します。
	Unicode(UTF-8)	Unicode(UTF-8)	
	Unicode(UCS-2LE)	Unicode(UCS-2LE)	
	Unicode(UCS-2BE)	Unicode(UCS-2BE)	
バイナリ比較	SJIS	—	バイナリ比較では、比較基準コードを使用しません。
	Unicode(UTF-8)	—	
	Unicode(UCS-2LE)	—	
	Unicode(UCS-2BE)	—	
CSV比較	SJIS	SJIS	CSV比較では、環境設定の文字コードをUnicode(UCS-2LE)およびUnicode(UCS-2BE)指定した場合、比較基準コードはSJISと見なします。
	Unicode(UTF-8)	Unicode(UTF-8)	
	Unicode(UCS-2LE)	SJIS	
	Unicode(UCS-2BE)	SJIS	

■BOM (Byte Order Mark)の扱い

BOM (Byte Order Mark)とは、UNICODE形式のファイルで、文字コードを判定するための手段としてファイル先頭にBOMの付加ができます。

VF-FILECOMPではBOMと比較基準コードで矛盾がないか判定します。

1) COBOL資産比較の動作 (BOMあり)

比較基準コード	出力結果	BOMのコード		
		UTF-8	UCS-2 LE	UCS-2 BE
SJIS	比較結果	「表示できないコードが含まれています」のメッセージ表示後、比較を中	「表示できないコードが含まれています」のメッセージ表示後、比較を中	「表示できないコードが含まれています」のメッセージ表示後、比較を中
	画面表示			

	結果ファイル	止します。	止します。	止します。
UTF-8	比較結果	正しく行われます。	「表示できないコードが含まれています」のメッセージ表示後、比較を中止します。	「表示できないコードが含まれています」のメッセージ表示後、比較を中止します。
	画面表示	(BOMを省いた内容で		
	結果ファイル	処理します)		
UCS-2 LE	比較結果		第一水準且つ第二水準以外の漢字コードは正しく行われません。	第一水準且つ第二水準以外の漢字コードは正しく行われません。
	画面表示	正しく行われません。		
	結果ファイル			
UCS-2 BE	比較結果		第一水準且つ第二水準以外の漢字コードは正しく行われません。	第一水準且つ第二水準以外の漢字コードは正しく行われません。
	画面表示	正しく行われません。		
	結果ファイル			

※出力結果：結果ファイルとは、比較結果ファイル（CSV形式）を示します。

2) COBOL資産比較の動作（BOMなし）

比較基準コード	出力結果	比較対象ファイルの文字コード			
		SJIS	UTF-8	UCS-2 LE	UCS-2 BE
SJIS	比較結果	正しく行われ ます。	「表示できない コードが含まれて います」のメッ セージ表示後、比 較を中止します。	「表示できない コードが含まれて います」のメッ セージ表示後、比 較を中止します。	「表示できない コードが含まれて います」のメッ セージ表示後、比 較を中止します。
	画面表示				
	結果ファイル				
UTF-8	比較結果	「表示できない コードが含まれて います」のメッ セージ表示後、比 較を中止します。	正しく行われま す。	「表示できない コードが含まれて います」のメッ セージ表示後、比 較を中止します。	「表示できない コードが含まれて います」のメッ セージ表示後、比 較を中止します。
	画面表示				
	結果ファイル				
UCS-2 LE	比較結果	正しく行われませ ん。	正しく行われませ ん。	正しく行われませ ん。	正しく行われませ ん。
	画面表示				
	結果ファイル				
UCS-2 BE	比較結果	正しく行われませ ん。	正しく行われませ ん。	正しく行われませ ん。	正しく行われませ ん。
	画面表示				
	結果ファイル				

※出力結果：結果ファイルとは、比較結果ファイル（CSV形式）を示します。

3) CSV比較の動作（BOMあり）

比較基準コード	出力結果	BOMのコード		
		UTF-8	UCS-2 LE	UCS-2 BE
SJIS	比較結果	「表示できないコードが 含まれています」のメッ セージ表示後、比較を中 止します。	「表示できないコードが 含まれています」のメッ セージ表示後、比較を中 止します。	「表示できないコードが 含まれています」のメッ セージ表示後、比較を中 止します。
	画面表示			
	結果ファイル			
UTF-8	比較結果	英数字以外の文字は正し く行われません。 (BOMを省いた内容で 処理します)	「表示できないコードが 含まれています」のメッ セージ表示後、比較を中 止します。	「表示できないコードが 含まれています」のメッ セージ表示後、比較を中 止します。
	画面表示	正しく行われます。 (BOMを省いた内容で		
	結果ファイル	処理します)		

※出力結果：結果ファイルとは、比較結果ファイル（HTML形式）を示します。

4) CSV比較の動作（BOMなし）

比較基準コード	出力結果	比較対象ファイルの文字コード			
		SJIS	UTF-8	UCS-2 LE	UCS-2 BE
SJIS	比較結果		正しく行われます。	「対象nの指定フィールドが存在しません」のメッセージ表示後、比較を中止します。	「対象nの指定フィールドが存在しません」のメッセージ表示後、比較を中止します。
	画面表示	正しく行われます。	英数字以外の文字は正しく行われません。		
	結果ファイル				
UTF-8	比較結果		正しく行われます。	「対象nの指定フィールドが存在しません」のメッセージ表示後、比較を中止します。	「対象nの指定フィールドが存在しません」のメッセージ表示後、比較を中止します。
	画面表示	正しく行われます。	英数字以外の文字は正しく行われません。		
	結果ファイル	英数字以外の文字は正しく行われません。	正しく行われます。		

※出力結果：結果ファイルとは、比較結果ファイル（HTML形式）を示します。

ファイル比較

ファイル比較を行うには、比較条件を設定します。比較条件設定ウィザードに従って設定を行ってください。

■比較条件設定ウィザード - ファイルの設定

比較対象となるファイル名やレコード情報を設定します。

No	項目	内容
(1)	ファイル名 (F)	比較するファイル1を指定します。
(2)	レコード分離(K)	レコード分離を設定します。 比較するファイルの種別が「バイナリ」の場合は「改行」または「レコード長」を指定します。「CSV」の場合は「改行コード」が指定されます。 「改行コード」を指定すると以下の改行コードを識別します。 <ul style="list-style-type: none"> － 復帰改行 : CRLF (0x0d0a) － 復帰 : CR (0x0d) － 改行 : LF (0x0a) 「レコード長」を指定すると以下の範囲で指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> － レコード長 : 1から32760 (バイナリのみ設定可)
(3)	レコード長(R)	比較するファイルの種別が「バイナリ」で、レコード分離が「レコード長」を選択した場合に指定します。
		比較するファイルの種別が「CSV」の場合、区切り文字を指定します。

(4)	区切り文字(M)	<ul style="list-style-type: none"> － 空白/タブ － カンマ (,)
(5)	引用符文字(J)	<p>比較するファイルの種別が「CSV」の場合、フィールド内のデータが文字列である場合の引用符文字を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> － シングルクォーテーション (') － ダブルクォーテーション (")
(6)	ファイル名(E)	比較するファイル ² を指定します。
(7)	レコード分離(L)	<p>レコード分離を設定します。</p> <p>比較するファイルの種別が「バイナリ」の場合は「改行」または「レコード長」を指定します。「CSV」の場合は「改行コード」が指定されます。</p> <p>「改行コード」を指定すると以下の改行コードを識別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 復帰改行 : CRLF (0x0d0a) － 復帰 : CR (0x0d) － 改行 : LF (0x0a) <p>「レコード長」を指定すると以下の範囲で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> － レコード長 : 1から32760 (バイナリのみ設定可)
(8)	レコード長(T)	比較するファイルの種別が「バイナリ」で、レコード分離が「レコード長」を選択した場合に指定します。
(9)	区切り文字(P)	<p>比較するファイルの種別が「CSV」の場合、区切り文字を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 空白/タブ － カンマ (,)
(10)	引用符文字(I)	<p>比較するファイルの種別が「CSV」の場合、フィールド内のデータが文字列である場合の引用符文字を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> － シングルクォーテーション (') － ダブルクォーテーション (")
(11)	詳細設定(D)	「詳細設定」ダイアログを起動します。比較不一致件数の設定など、比較に関する詳細な設定を行います。ファイル種別がバイナリ、CSVの場合に設定することが可能です。
(12)	COBOL資産の比較をおこなう(C)	比較するファイルの種別が「テキスト」の場合指定可能です。
(13)	正書法(Y)	<p>「COBOL資産の比較をおこなう」を選択した場合、選択可能です。COBOL資産の書式を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 可変長 － 固定長 － 自由長
(14)	比較除外指定(U)	<p>「COBOL資産の比較をおこなう」を選択した場合、選択可能です。COBOL資産の比較から除外する内容を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 行内注記を比較しない
(15)	比較基準コード	比較するファイルの種別が「テキスト」および「CSV」の場合、 比較基準 となるコード体系を表示します。

[操作手順]

1)[[比較条件設定ウィザード - ファイル種別の選択](#)]画面で選択したファイル種別によって、選択項目が

変わります。有効になっている項目を設定してください。

- 2) ファイル種別が「バイナリ」、「CSV」の場合は、必要に応じて「詳細設定」を設定してください。
- 3) 項目を設定後、「完了」ボタンを押下してください。比較結果画面が表示されます。
ファイル種別がテキストの場合は比較ブラウザが起動し、比較結果を表示します。
[比較条件設定ウィザード - ファイル種別の選択]画面で比較オプションを設定している場合は、「次へ」ボタンが表示され、設定画面が表示されます。
フィールド指定比較 → [比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較]
同一キー比較 → [比較条件設定ウィザード - 同一キー比較]

■詳細設定

ファイル種別がバイナリ、CSVの場合に設定することが可能です。比較に関する詳細な設定をします。



No	項目	内容
(1)	不一致件数設定	比較処理を発生した不一致件数が指定された値になるまで処理を続行します。最大9,999件まで指定できます。初期値では500件まで比較処理を実行します。
(2)	比較設定	– 空白とLOW - VALUEを区別しない。 レコード中に空白 (16進数で0x20) が存在する時、LOW - VALUE (16進数で0x00) と同一値として処理します。 ファイル種別がバイナリで、レコード分離がレコード長の場合のみ有効です。 – データ末尾の空白を削除して比較する。 データの末尾に空白 (16進数で0x20) が存在する時、空白を削除して比較処理を実行します。
(3)	余り領域の文字設定	比較するデータ長が短い場合に、余りの領域に詰める文字を16進数で指定します。余り領域を設定するケースとして以下のケースがあります。 ファイル種別がバイナリでレコード分離がレコード長を指定した場合 – 最後のレコードが指定されたレコード長より短い場合。 – 比較範囲内のデータが途中までしか存在しない場合。 – 指定された比較範囲がレコード長を超えている場合。

[操作手順]

- 1) [比較条件設定ウィザード - ファイルの設定]画面で「詳細設定」ボタンを押下します。
- 2) 項目を設定後、「OK」ボタンを押下します。[比較条件設定ウィザード - ファイルの設定]画面に戻ります。
- 3) 比較処理後は、メニューの「表示」 → 「詳細情報」で設定した内容を確認することができます。

ファイル比較

ファイル比較を行うには、比較条件を設定します。比較条件設定ウィザードに従って設定を行ってください。

■比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較

比較対象のファイル種別を選択します。必要に応じて比較オプションを設定します。

No	項目	内容
(1)	比較対象1のフィールド(I)	比較対象ファイル1内のレコードから、比較したい位置決めを行います。これをフィールドといいます。フィールドは、「フィールド設定」ダイアログボックスで設定したものを使用します。フィールドは最大1000個まで設定できます。チェックオンのフィールドが有効になります。 フィールドは、対象ファイル1と対象ファイル2で同じ個数をチェックし、指定してください。
(2)	フィールド設定(S)	「フィールド設定」ダイアログボックスを起動します。一覧にあるフィールドを編集する場合は、比較対象1のフィールドを選択し、ダブルクリックします。すると、そのフィールド情報を「フィールド設定」ダイアログボックスに反映させて起動します。編集後は「フィールド設定」ダイアログボックスの「適用」ボタンを押下してください。
(3)	複写(C)	比較対象2のフィールドを比較対象1のフィールドに複写します。比較対象2のフィールドが選択されている場合は、その選択されているフィールドを複写します。選択されていない場合は、すべて複写します。その際、比較対象1で設定されているフィールドはすべて削除されます。
(4)	削除(D)	比較対象1のフィールドを削除します。比較対象1のフィールドが選択されている場合は、その選択されているフィールドを削除します。選択されていない場合は、すべてのフィールドを削除します。
(5)	比較対象2のフィールド(J)	比較対象ファイル2内のレコードから、比較したい位置決めを行います。これをフィールドといいます。フィールドは、「フィールド設定」ダイアログボックスで設定したものを使用します。フィールドは最大1000個まで設定できます。チェックオンのフィールドが有効になります。 フィールドは、対象ファイル1と対象ファイル2で同じ個数をチェックし、指定してください。
(6)	フィールド設定(V)	「フィールド設定」ダイアログボックスを起動します。一覧にあるフィールドを編集する場合は、比較対象2のフィールドを選択し、ダブルクリックします。すると、そのフィールド情報を「フィールド設定」ダイアログボックスに反映させて起動します。編集後は「フィールド設定」ダイアログボックスの「適用」ボタンを押下してください。
(7)	複写(P)	比較対象1のフィールドを比較対象2のフィールドに複写します。比較対象1のフィールドが選択されている場合は、その選択されているフィールドを複写します。選択されてい

		い場合は、すべて複写します。その際、比較対象 ² で設定されているフィールドはすべて削除されます。
(8)	削除(L)	比較対象 ² のフィールドを削除します。比較対象 ² のフィールドが選択されている場合は、その選択されているフィールドを削除します。選択されていない場合は、すべてのフィールドを削除します。
(9)	NOT指定(T)	指定された比較範囲を除くその他の範囲を使用したい場合に指定します。ファイル種別が「CSV」の場合は、指定できません。

[操作手順]

- 1) フィールドの設定を行います。
- 2) 必要に応じてNOT指定の設定を行います。
- 3) すべての項目を設定後、「完了」ボタンを押下してください。比較結果画面が表示されます。
[比較条件設定ウィザード - ファイル種別の選択]画面で「同一キー比較」を設定している場合は、次へボタンが表示され、[比較条件設定ウィザード - 同一キー比較]画面が表示されます。

○ポイント

- [COBOL言語資産からのフィールド情報抽出]からもフィールド情報を設定することができます。

■フィールド設定

比較対象レコードにフィールドを設定します。

No	項目	内容
(1)	データ種別(B)	データ種別は、比較対象ファイルのファイル種別が「CSV」の場合、対象のフィールドの属性を指定します。データ種別には、「数値」と「文字列」があります。なお、比較対象ファイルのファイル種別が「バイナリ」の場合は、データ種別に「バイナリ」を指定します。
(2)	開始位置(O)	フィールドのレコード内開始位置を指定します。開始位置は、比較対象ファイルのファイル種別により意味が異なります。 - ファイル種別が「バイナリ」の場合 対象のフィールドが、レコードの開始を1として何バイト目かを指定します。 - ファイル種別が「CSV」の場合 対象のフィールドが、区切り文字で区切られた部分の何番目かを指定します。
(3)	データ長(L)	比較対象のファイル種別が「バイナリ」の場合、フィールドのデータ長を1から32760の範囲で指定します。比較対象のファイル種別が「CSV」の場合、フィールドのデータ長は、比較時にデータ長を取得するため、指定できません。
(4)	コメント(C)	フィールドの説明を指定します。最大で全角50文字まで指定できます。
(5)	連続入力(R)	フィールド一覧にフィールドを追加後、データ種別、データ長を保持したまま、開始位置を1upし、コメントをクリアします。
(6)	適用	フィールド一覧にフィールドを追加します。フィールド一覧で、フィールドが選択されていない場合は、末尾に追加します。フィールドが選択されている場合は、その上部に追加します。

[操作手順]

- 1) フィールドの設定を行います。
- 2) 各項目を設定後、「適用」ボタン、または「連続入力」ボタンを押下します。すると比較対象のフィールド一覧に反映されます。
ただし、2つ以上の同じ条件のフィールドは設定することができません。

3) 入力 completed 場合は、「閉じる」ボタンを押下し終了します。

ファイル比較

ファイル比較を行うには、比較条件を設定します。比較条件設定ウィザードに従って設定を行ってください。

■比較条件設定ウィザード - 同一キー比較

比較対象の同一キーを設定します。

No	項目	内容
(1)	比較対象1のキー(I)	比較対象ファイル1内のレコードから、比較対象ファイル2の比較したいレコードを見つけ出すキー項目を設定します。これを同一キーといいます。キーは最大1000個まで候補を設定できます。チェックオンのキーが有効になります。 キーは、対象ファイル1と対象ファイル2でひとつずつをチェックし、指定してください。
(2)	キー設定(S)	「同一キー設定」ダイアログボックスを起動します。一覧にあるキーを編集する場合は、比較対象1のキーを選択し、ダブルクリックします。すると、そのキー情報を「同一キー設定」ダイアログボックスに反映させて起動します。編集後は「同一キー設定」ダイアログボックスの「適用」ボタンを押下してください。
(3)	複写(C)	比較対象2のキーを比較対象1のキーに複写します。比較対象2のキーが選択されている場合は、その選択されているキーを複写します。選択されていない場合は、すべて複写します。その際、比較対象1で設定されているキーはすべて削除されます。
(4)	削除(D)	比較対象1のキーを削除します。比較対象1のキーが選択されている場合は、その選択されているキーを削除します。選択されていない場合は、すべてのキーを削除します。
(5)	比較対象2のキー(J)	比較対象ファイル2内のレコードから、比較対象ファイル1の比較したいレコードを見つけ出すキー項目を設定します。これを同一キーといいます。キーは最大1000個まで候補を設定できます。チェックオンのキーが有効になります。 キーは、対象ファイル1と対象ファイル2でひとつずつをチェックし、指定してください。
(6)	キー設定(V)	「同一キー設定」ダイアログボックスを起動します。一覧にあるキーを編集する場合は、比較対象2のキーが選択し、ダブルクリックします。すると、そのキー情報を「同一キー設定」ダイアログボックスに反映させて起動します。編集後は「同一キー設定」ダイアログボックスの「適用」ボタンを押下してください。
		比較対象1のキーを比較対象2のキーに複写します。比較対象1の

(7)	複写(P)	キーが選択されている場合は、その選択されているキーを複写します。選択されていない場合は、すべて複写します。その際、比較対象 ² で設定されているキーはすべて削除されます。
(8)	削除(L)	比較対象 ² のキーを削除します。比較対象 ² のキーが選択されている場合は、その選択されているキーを削除します。選択されていない場合は、すべてのキーを削除します。
(9)	同一キーが存在しないレコードでも出力する(T)	比較対象 ¹ と ² に同一キーが片方にしか存在しない場合でも、比較結果として出力します。

[操作手順]

- 1) 同一キーの設定を行います。レコード内のキーの位置を指定します。キーは比較対象に対して一つだけ指定することができます。比較対象それぞれのキーのデータ長は同一でなければなりません。
- 2) 設定後、「完了」ボタンを押下してください。比較結果画面が表示されます。

○ポイント

- [COBOL言語資産からのフィールド情報抽出]からも同一キー情報を取り込むことが可能です。
- 比較対象ファイル¹を基本としてレコード抽出します。よって、比較対象ファイル¹の読み込みが終了した時点で比較処理は終了し、そこまでの結果を出力します。
- 比較対象ファイル¹には存在し、比較対象ファイル²には存在しないレコードがある場合、そのレコードは不一致として出力されません。
- 比較対象ファイル²には存在し、比較対象ファイル¹には存在しないレコードがある場合、そのレコードは不一致として出力されません。
- 「同一キーが存在しないレコードでも出力する」をチェックした場合は、同一キーが存在しない場合でも、不一致として出力されます。

■同一キー設定

同一キーを設定します。

No	項目	内容
(1)	データ種別(B)	データ種別は、比較対象ファイルのファイル種別が「CSV」の場合、対象のフィールドの属性を指定します。データ種別には、「数値」と「文字列」があります。なお、比較対象ファイルのファイル種別が「バイナリ」の場合は、データ種別に「バイナリ」を指定します。
(2)	開始位置(O)	同一キーのレコード内開始位置を指定します。開始位置は、比較対象ファイルのファイル種別により意味が異なります。 - ファイル種別が「バイナリ」の場合 対象のフィールドが、レコードの開始を1として何バイト目かを指定します。 - ファイル種別が「CSV」の場合 対象のフィールドが、区切り文字で区切られた部分の何番目かを指定します。
(3)	データ長(L)	比較対象のファイル種別が「バイナリ」の場合、データ長を1から32760の範囲で指定します。比較対象のファイル種別が「CSV」の場合、データ長は、比較時にデータ長を取得するため、指定できません。
(4)	コメント(C)	同一キーの説明を指定します。最大で全角50文字まで指定できます。
(5)	連続入力(R)	同一キー一覧に同一キーを追加後、データ種別、データ長を保持したまま、開始位置を1upし、コメントをクリアします。

(6) 適用	同一キー一覧に同一キーを追加します。同一キー一覧で、同一キーが選択されていない場合は、末尾に追加します。同一キーが選択されている場合は、その上部に追加します。
--------	---

【操作手順】

- 1) 同一キーの設定を行います。
- 2) 各項目を設定後、「適用」ボタン、または「連続入力」ボタンを押下します。すると比較対象のキー一覧に反映されます。
ただし、2つ以上の同じ条件のキーは設定することができません。
- 3) 入力完了した場合は、「閉じる」ボタンを押下し終了します。

○ポイント

- キーはレコード内に設定します。フィールド指定比較で「NOT指定」を指定した場合でも、キーはレコード内にあるものを比較対象とします。

比較ブラウザ

テキスト比較結果は比較ブラウザにて表示されます。
以下に比較ブラウザの操作方法について記します。
はじめに

[SIMPLIA VF-FILECOMP 比較ブラウザとは](#)
[SIMPLIA VF-FILECOMP 比較ブラウザの使い方](#)

[文字列を検索する](#)

[比較結果を印刷する](#)

[カーソルを操作する](#)

[カーソルを移動する](#)

[カーソルを行の先頭に移動する](#)

[カーソルを行の末尾に移動する](#)

[カーソルを指定した行に移動する\(ジャンプ\)](#)

[環境を設定する](#)

[フォントを表示する](#)

[表示色を変更する](#)

[ステータスバーについて](#)

[リファレンス](#)

[\[ファイル\]メニューのコマンド](#)

[\[検索\]メニューのコマンド](#)

[\[ツール\]メニューのコマンド](#)

[\[表示\]メニューのコマンド](#)

[\[ポップアップ\]メニューのコマンド](#)

[ショートカットキーの一覧](#)

[ツールバーからコマンドを実行する](#)

◆比較リスト

SIMPLIA VF-FILECOMP 比較リストとは、差分を表示または印刷するために比較ブラウザから呼び出されるユーティリティです。

はじめに

[SIMPLIA VF-FILECOMP 比較リストとは](#)

[比較リストの使い方](#)

[印刷するには](#)

[印刷イメージを確認するには](#)

[プリンタの設定をする](#)

[表示色を指定するには](#)

[表示形式を変更するには](#)

[差分のみの表示に切り替えるには](#)

[すべての行の表示に切り替えるには](#)

[フォントを指定するには](#)

[表示フォントを指定するには](#)

[印刷フォントを指定するには](#)

[リファレンス](#)

[\[ファイル\]メニューのコマンド](#)

[\[表示\]メニューのコマンド](#)

[\[オプション\]メニューのコマンド](#)

テキスト比較の比較方法について

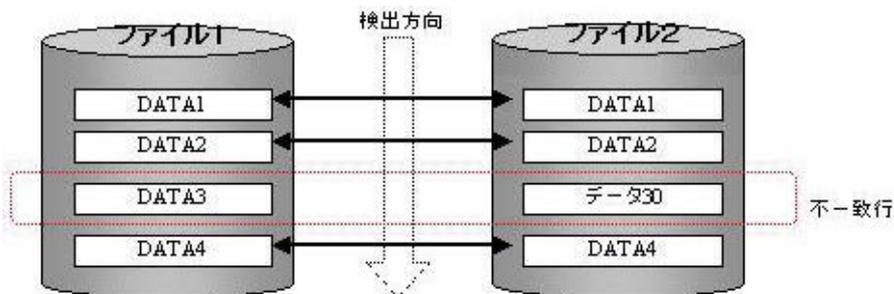
ファイル比較（テキスト／COBOL資産）とフォルダ比較（COBOL資産）では、機械的な比較を実現します。

比較方法ごとの比較内容は以下のとおりです。

なお、ファイル比較（テキスト）では、環境設定の比較方法の選択内容に関わらず「ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出」で行います。

■不一致検出方向（ファイル先頭から末尾に不一致を検出）

「ファイル先頭から末尾に不一致を検出」の不一致行検出方法は以下のとおりです。

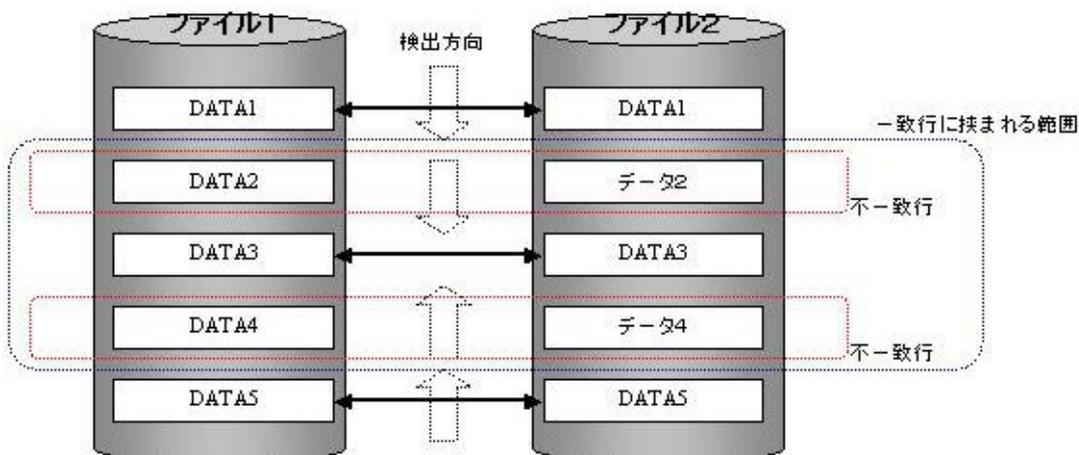


「ファイル先頭から末尾に不一致を検出」オプションを設定した場合、ファイル先頭から行単位に一致する行を検出し、一致行の挟まれる行を不一致行と特定します。不一致行は、比較対象ファイルの両方に存在するレコードか、一方にしか存在しないレコードかにより、追加／更新／削除に識別し、出力されます。

「ファイル先頭から末尾に不一致を検出」する方法で、比較を実行する場合は、事前に環境設定で比較方法を選択する必要があります。

■不一致検出方向（ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出）

「ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出」の不一致行検出方法は以下のとおりです。



「ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出」オプションを設定した場合、ファイル先頭から行単位に一致する行を検出し、ファイル末尾からも行単位に一致行を検出します。ファイル先頭からの検出行とファイル末尾からの検出行に挟まれる行が存在する場合、不一致行と特定します。不一致と特定された行の範囲に一致行が存在する場合は、再度、特定された行の範囲で先頭からの一致行特定と末尾からの一致行特定を繰り返しておこないます。不一致行は、比較対象ファイルの両方に存在するレコードか、一方にしか存在しないレコードかにより、追加／更新／削除に識別し、出力されます。

「ファイル先頭・末尾両方向から不一致を検出」する方法で、比較を実行する場合は、事前に環境設定で比較方法を選択する必要があります。

■COBOL資産の比較方法

COBOL資産の比較では、書式や言語仕様を考慮した比較を実行します。

(1) 書式

COBOL資産の比較では、正書法（可変長／固定長／自由長）の違いにより、比較範囲を変更します。

－ 可変 1カラム～6カラムの行番号領域を除く、7カラム～行末を比較対象とします。

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8-----+-----

長 000000 MOVE "FUJTISU" TO ITEM01.
 <--比較対象----- (行末
 まで)

一 固定 1カラム～6カラムの行番号領域と73カラム目以降のアイデント欄を除く、7カラム～72カラム目を比較対象とします。
 長 -----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----+~
 000000 MOVE "FUJTISU" TO ITEM01.
 <--比較対象----->

一 自由 1カラム～行末を比較対象とします。
 長 -----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----+~
 MOVE "FUJTISU" TO ITEM01.
 <--比較対象----- (行末
 まで)

(2) 言語仕様

COBOL資産の比較では、言語仕様を考慮した以下の比較を実現します。

一行内注記 「*>」から始まる行内注記は、比較対象外とします。

比較例 (可変長資産の場合)				比較結果	説明
ファイル1		ファイル2			
000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. *>2005 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	一致 一致 一致	行内注記は比較対象外		
000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO *>ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	一致 削除 追加 一致	ファイル1の000002行の「ITEM01」に対応する文字列がファイル2の000002行に存在しないため、ファイル1の000002行は「削除」、ファイル2の000002行は「追加」として出力されます。		

一行内注記 標識領域に「*」を付加しただけの行または、「*」を削除しただけの行は、更新行として出力されます。

「*」以外の記述は、以下の特殊比較仕様の対象外です。

比較例 (可変長資産の場合)				比較結果	説明
ファイル1		ファイル2			
000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002* MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	一致 更新	「*」を付加し、コメント化した行は、更新行として出力されます。		

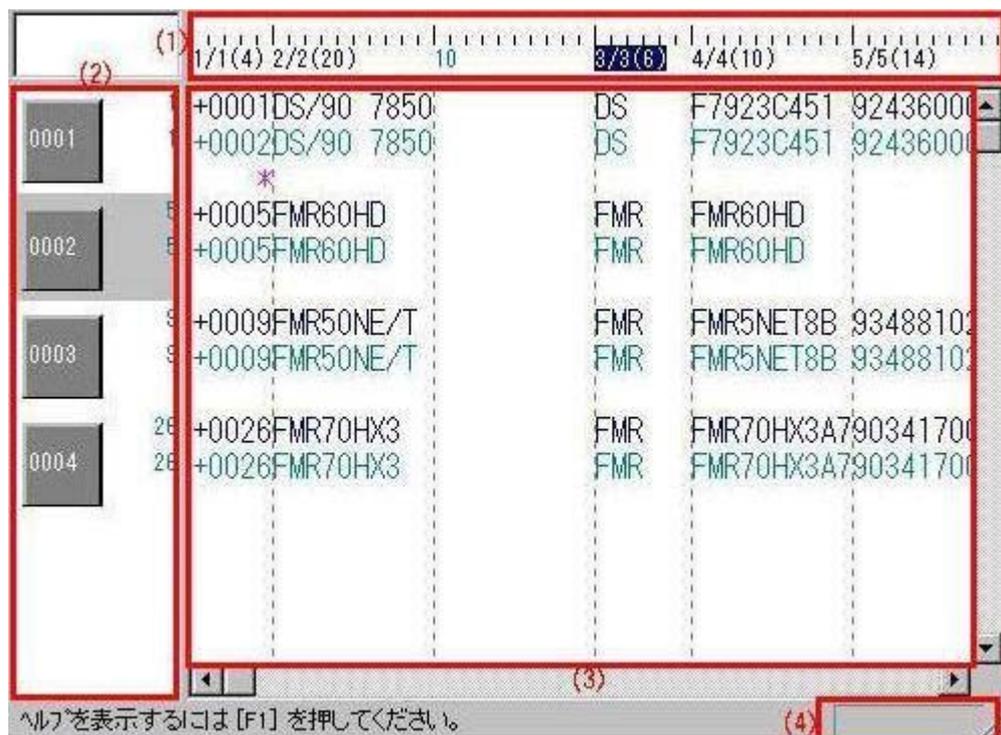
			一致	
000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002* MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	一致 更新 一致	一致 更新 一致	「*」を削除し、有効化した行は、更新行として出力されます。
000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002* MOVE "FUJITSU" TO ITEM01. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	000001 MOVE "FUJITSU" TO ITEM00. 000002 MOVE "FUJITSU" TO ITEM03. 000003 MOVE "FUJITSU" TO ITEM02.	一致 削除 追加 一致	一致 削除 追加 一致	ファイル1の000002行の「ITEM01」に対応する文字列がファイル2の000002行では「ITEM03」に変更されているため、ファイル1の000002行は「削除」、ファイル2の000002行は「追加」として出力されます。

(3) その他

COBOL資産の比較では、文字定数以外の連続する空白／タブは、1つの空白とみなし、比較されます。

比較結果の表示について

比較条件に基づいて比較処理された結果は、比較結果画面に表示されます。比較結果画面は、比較結果を分かりやすく表示するために以下のような仕組みになっています。



No	項目	内容
	ルーラー	1バイト毎に目盛りでデータの区切りを表した領域です。
(1)	比較範囲ガイド 3/3(6)	比較範囲を指定している場合に限り、比較範囲1、2の開始位置とデータ長を上図のように表示しています。 データ長が短く、表示しきれない場合は、マウスで当領域を選択すると表示することができます。
(2)	不一致レコード番号領域	比較処理後、不一致となったレコード毎に番号を付けて表示した領域のことです。 当領域をマウスで選択することで、前の不一致表示操作や次の不一致表示操作を行うことができます。
(3)	比較結果表示領域	比較処理後、不一致となったレコードが存在する場合、比較対象ファイル1、2それぞれのレコードと不一致になった箇所を示すインディケータレコード（比較対象ファイル1と2で不一致になった部分を「*」で記された比較対象ファイルと同一のレコード長をもつ領域）を表示する領域です。
(4)	ステータス	16進数の表示状況

○ポイント

- 比較結果表示領域に表示された不一致を示すインディケータ「*」を検索する場合、**不一致部分の表示方法**を参照して下さい。

16進数表示の方法

比較結果は、キャラクタ表示しています。データによってはキャラクタ表示だと表現できない場合があります、内容を確認することができません。

そのような場合、16進数表示を行い、データを全て16進数に変換して表示します。

[操作手順]

- 1) **比較**を行うか、メニューの[ファイル]から[開く-比較結果ファイル]を選択し、比較結果ファイルを開きます。
- 2) メニューの[表示]から[16進数表示]を選択します。
- 3) 16進数表示を解除する場合は、再度、2)を行います。

○ポイント

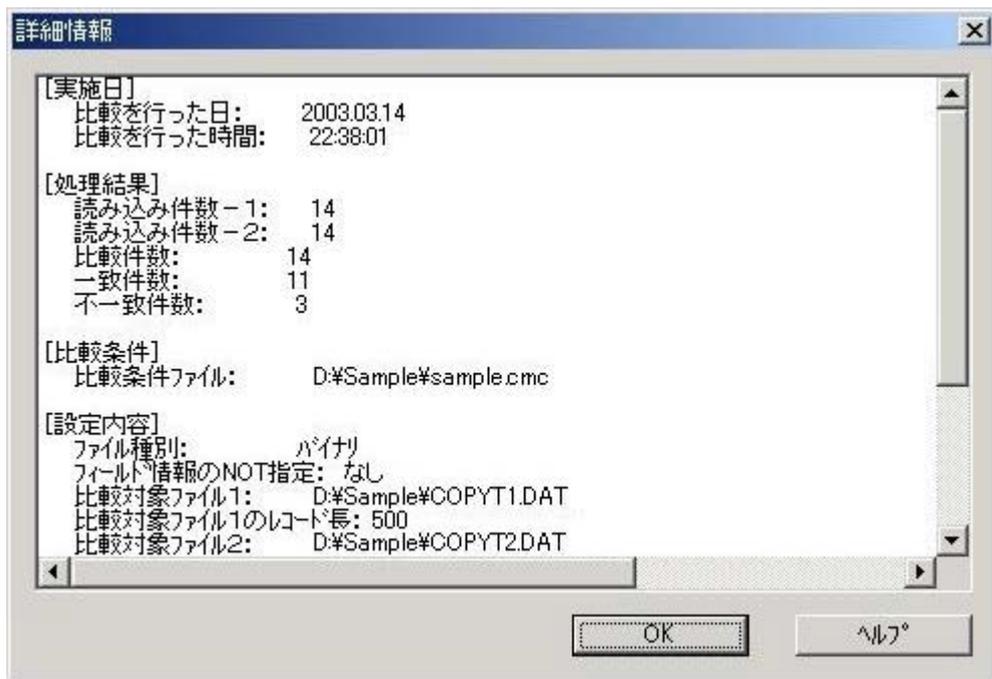
-16進数表示中は、ステータスバー上に「16進数表示」と表示されます。



-比較結果画面上で右クリックすると、メニューが表示されるので、「16進数表示」を選択することによっても、同様に行えます。

詳細情報の表示方法

比較処理後の比較結果や比較結果ファイルを開いた場合、比較結果に対する以下の情報を表示することができます。



No	項目	内容
(1)	[実施日]	比較処理を実施した日、時間
(2)	[処理結果]	比較対象ファイルからのレコードの読み込み件数 比較処理されたレコード件数 比較処理で一致、不一致になったレコード件数
(3)	[比較条件]	比較処理で使用された比較条件ファイル名
(4)	[設定内容]	比較対象ファイルのファイル種別とファイル名 レコード識別子(ファイル種別がバイナリとCSVの場合) フィールド識別子(ファイル種別がCSVの場合) 文字列識別子(ファイル種別がCSVの場合) レコード長(ファイル種別がバイナリの場合) 比較対象の範囲 比較範囲のNOT指定
(5)	[実行指定]	比較処理で中断するための不一致件数値 空白とLOW-VALUEの区別指定 余り文字領域に指定する16進数文字 データ末尾の空白を削除して比較するかの指定
(6)	[レコード条件指定]	同一キー値の比較で指定されたキー値

○ポイント

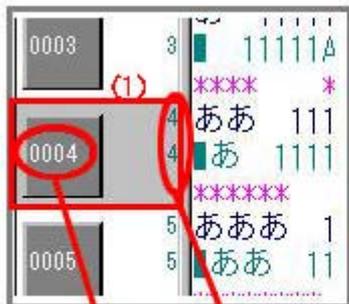
- 比較結果画面上で右クリックすると、メニューが表示され、「詳細情報表示」を選択することによっても同様に行えます。

不一致部分の表示

比較結果の不一致部分単位にウィンドウをスクロールすることができます。

[操作手順]

- 1) 比較を行うか、メニューの[ファイル]から[開く-比較結果ファイル]を選択し、比較結果ファイルを開きます。
- 2) 不一致部分を表示したいレコードを選択します。

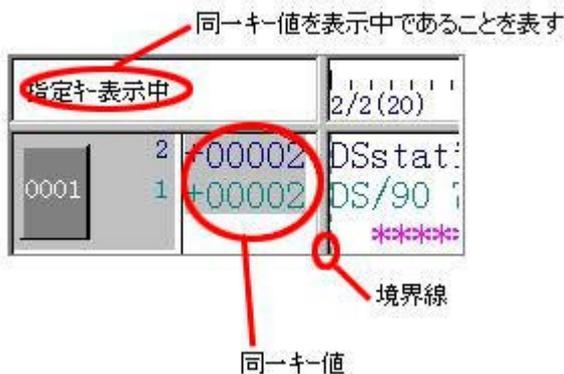


比較対象ファイル上のレコード番号(上1、下2)

不一致レコード番号

No	項目	内容
(1)	不一致レコード番号領域	比較処理後、不一致となったレコード毎に番号を付けて表示した領域のことです。 当領域をマウスで選択することで、前の不一致表示操作や次の不一致表示操作を行うことができます。

- 3) レコード条件に同一キー比較を選択した場合は、同一キー値を表示します。



- 4) メニューの[表示]から[次の不一致表示]を選択します。
- 5) 前の不一致部分を表示したい場合は、メニューの[表示]から[前の不一致表示]を選択します。

○ポイント

- 比較結果画面上でマウスの右をクリックすると、メニューが表示されます。「前の不一致表示」、「次の不一致表示」を選択することによってスクロールすることができます。
- 前の不一致表示はShift+Tabキーで、次の不一致表示はTabキーを押下することによってスクロールすることができます。

比較結果の印刷方法

比較結果は、印刷することができます。

■印刷設定

印刷の設定を行います。



No	項目	内容
(1)	印刷表示	- 16進数を印刷する 比較結果のキャラクタ表示の下に16進数を印刷するかを指定します。 - 縦罫線を印刷する 10バイト毎の縦罫線を印刷するかを指定します。
(2)	印刷時の大きさ	印字サイズを設定します。比率は50%から150%まで指定することができます。
(3)	フォント	印刷で表示されるフォントを設定します。

[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]ー[環境設定]ー[印刷時の初期値設定]を選択し、ヘッダー、フッター情報を設定します。
- 2) [比較]ー[比較]または、[ファイル]ー[開く]ー[比較結果ファイル]により、比較結果を表示します。
- 3) [印刷設定]メニューにて、16進数印刷などを設定します。
- 4) [印刷プレビュー]メニューにて、印刷イメージを確認します。
- 5) [印刷]メニューにて比較結果を印刷します。

* ここでの印刷設定は、ファイル比較のファイル種別バイナリ、CSVの場合のみ有効です。

○ポイント

- CSV形式の比較結果は、フィールド単位に印刷されます。

比較条件ファイルを連続して実行する方法

一フォルダ内に格納されている複数の比較条件ファイルは、連続して比較処理を行うことができます。

■比較条件ファイルからの比較

比較処理後の比較結果や比較結果ファイルを開いた場合、比較結果に対する以下の情報を表示することができます。



No	項目	内容
(1)	比較条件ファイルのフォルダ	実行すべき比較条件ファイルが格納されているフォルダを設定します。

[操作手順]

- 1) メニューの[ファイル] - [比較条件ファイル指定比較]を選択します。
- 2) [比較条件ファイルからの比較]画面で、実行すべき比較条件ファイルの格納先フォルダを設定します。
- 3) 「次へ」ボタンを押下します。

■比較結果設定

連続比較処理後の比較条件ファイル、比較結果ファイルの格納先を指定します。



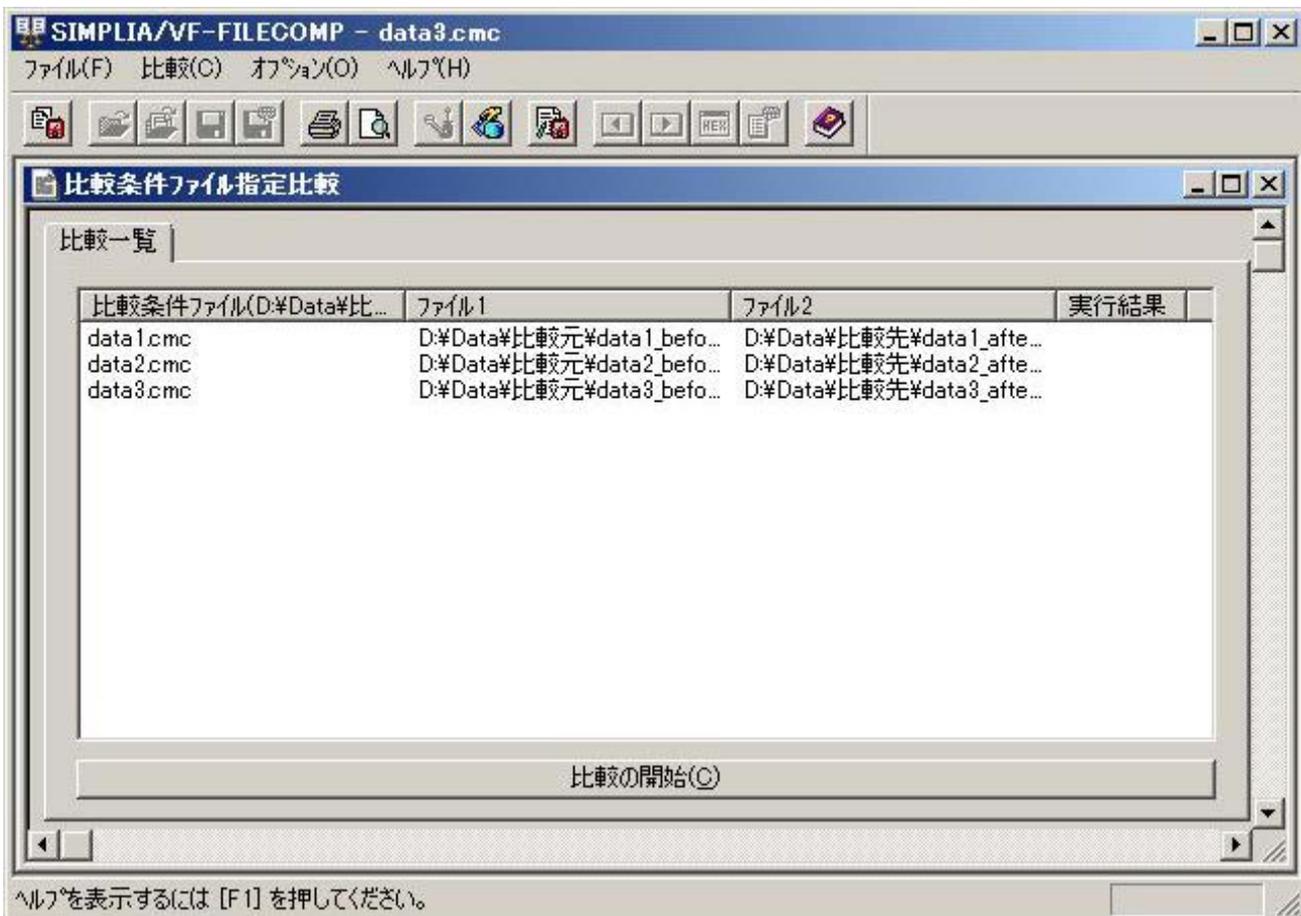
No	項目	内容
(1)	新規作成される比較条件ファイルの格納先フォルダ	新規に作成される比較条件ファイルの格納先フォルダを設定します。 比較条件ファイル指定比較を行うと比較条件ファイルが新たに作成されます。 既存の比較条件ファイルを保持し、更新された比較条件ファイルを別フォルダに格納します。 比較条件ファイルは、拡張子[.cmc]です。
(2)	比較結果ファイルの格納先フォルダ	比較結果ファイルを作成する場合に、格納先フォルダを設定します。 「比較結果ファイルを作成する」をチェックすると、格納先フォルダを設定することができます。 比較結果ファイルは、[比較条件ファイル名.cmr]のファイル名で作成されます。 例) [test1.cmc.cmr] 比較結果を作成しないことも可能です。

[操作手順]

- 1) 新規に作成される比較条件ファイルの格納先フォルダを設定します。
- 2) 比較条件ファイルを実行した際に比較結果ファイルを作成するかしないかを設定します。作成する場合は、比較結果ファイルの格納先フォルダを設定します。
- 3) 「完了」ボタンを押下します。

■比較一覧

比較処理後の比較結果や比較結果ファイルを開いた場合、比較結果に対する以下の情報を表示することができます。



No	項目	内容
(1)	比較一覧	連続比較を行う比較条件ファイル名、比較対象ファイル名、実行結果を一覧で表示します。
(2)	比較条件ファイル	「比較条件ファイルからの比較」画面で設定されたフォルダ配下の比較条件ファイル名を表示します。
(3)	ファイル1	比較条件ファイルで設定されている比較対象ファイル ¹ をフルパスで表示します。
(4)	ファイル2	比較条件ファイルで設定されている比較対象ファイル ² をフルパスで表示します。
(5)	実行結果	比較実行後の結果が表示されます。 比較結果は、「一致」または「不一致」で表示されます。
(6)	比較の開始	一覧に表示されている比較条件ファイルを実行します。初回はすべての条件ファイルを実行します。一覧で選択された比較条件ファイルのみを実行することも可能です。

【操作手順】

- 1) 比較一覧に比較条件ファイル名が表示されます。
- 2) 「比較の開始」ボタンを押下すると、比較条件ファイルを連続して実行します。条件ファイルを複数選択して実行することも可能です。
- 3) 実行結果が随時比較一覧に表示されます。
- 4) 比較結果を印刷する場合は、[ファイル]メニューの[印刷]を選択します。

比較処理をバッチモードで実行する方法

◆バッチモードによる比較

バッチモードによる比較処理では、指定によりウィンドウを表示せずにバックグラウンド上で処理を実行させることができます。

実行結果については、コマンドの復帰値およびログファイルの内容により確認できます。

■ファイル比較

コマンドライン形式 (□は省略可)

`vffil32.exe /x` または `/b` 比較条件ファイル名(*.cmc) `/f` または `/rf` 比較結果ファイル名
[`/en` 実行ログファイル名 または `/ea`]

ファイル名は、フルパスで記述してください。

パスを省略した場合は、カレントフォルダとみなします。

●パラメタの説明

x 比較条件ファイル名 (拡張子は.cmc)

⇒ 比較条件ファイルを指定します。

(実行時に進捗状況インジケータを表示します。)

進行状況インジケータの[中断]ボタンによる、終了中断が可能です。

b 比較条件ファイル名 (拡張子は.cmc)

⇒ 比較条件ファイルを指定します。

(実行時にウィンドウを一切表示しません。)

f 比較結果ファイル名 (拡張子は.cmr)

⇒ 強制上書きモード。比較結果ファイルが存在している場合、上書きします。

rf 比較結果ファイル名 (拡張子は.cmr)

⇒ 比較結果ファイルが存在する場合は、エラーとするモード。

en 実行ログファイル名 (拡張子は.log)

⇒ 実行ログ出力ファイルを指定します。

ea

⇒ 実行ログは、error.logファイルに出力します。既にログファイルが存在している場合は、追記します。

●使用例

> `vffil32.exe /b test.cmc /rf test1.cmr /en test.log`

比較条件ファイルtest.cmcを実行。比較結果ファイルtest1.cmrを出力。エラーログtest.logを出力。

> `vffil32.exe /x test.cmc /f test1.cmr /ea`

比較条件ファイルtest.cmcを実行。インジケータ表示。比較結果ファイルtest1.cmrを出力。エラーログerror.logを出力。

■フォルダ比較

コマンドライン形式 - (□は省略可)

v vffil32.exe /folder_compare /x または /b 比較条件ファイル名(*.coc)

/ff または /rff 比較結果ファイル名

[/en 実行ログファイル名 または /ea]

ファイル名は、フルパスで記述してください。パスを省略した場合は、カレントフォルダとみなします。

●パラメタの説明

x フォルダ比較条件ファイル名（拡張子は.coc）

⇒ フォルダ比較条件ファイルを指定します。

（実行時に進捗状況インジケータを表示します。）

進行状況インジケータの[中断]ボタンによる、終了中断が可能です。

b フォルダ比較条件ファイル名（拡張子は.coc）

⇒ フォルダ比較条件ファイルを指定します。

（実行時にウィンドウを一切表示しません。）

ff フォルダ比較結果ファイル名（拡張子は.cor）

⇒ 強制上書きモード。フォルダ比較結果ファイルが存在している場合、上書きします。

rff フォルダ比較結果ファイル名（拡張子は.cor）

⇒ 比較結果ファイルが存在する場合は、エラーとするモード。

en 実行ログファイル名（拡張子は.log）

⇒ 実行ログ出力ファイルを指定します。

ea

⇒ 実行ログは、error.logファイルに出力します。既にログファイルが存在している場合は、追記します。

●使用例

> vffil32.exe /folder_compare /b test.coc /rff test1.cor /en test.log

フォルダ比較条件ファイルtest.cocを実行。フォルダ比較結果ファイルtest1.corを出力。エラーログtest.logを出力。

> vffil32.exe /folder_compare /x test.coc /ff test1.cor /ea

フォルダ比較条件ファイルtest.cocを実行。インジケータ表示。フォルダ比較結果ファイルtest1.corを出力。エラーログerror.logを出力。

■注意事項

●注意事項

- x または b は、どちらか一方を必ず指定しなければなりません。

- x と b は、同時に指定することはできません。

- x と b が指定されていない場合は、VF-FILECOMPが起動します。

- f または ff オペランドが指定されている場合は出力ファイルが既に存在しても、強制的に上書きします。

→ f または ff オペランドが指定されていない場合は、強制終了されます。

- rf または rff オペランドが指定されている場合は出力ファイルが既に存在すると、比較処理が行われません。その旨はエラーログには出力されません。
- ファイル比較とフォルダ比較のオペランドが混在している場合は、比較処理は行われません。

●復帰値

実行コマンドは以下のいずれかの復帰値で終了します。(プロセスの強制終了や異常終了時の復帰値は保証できません)

復帰値	説明
0	: 正常終了 (不一致なし)
1	: 正常終了 (不一致あり)
2	: 未使用
3	: 異常終了
8	: 環境設定エラー(初期フォルダ、作業フォルダの設定なし、またはフォルダが存在しない)
9	: パラメタエラー

COBOL言語資産からのフィールド情報抽出

COBOL言語資産から、フィールド情報を抽出することができます。抽出したフィールド情報は、フィールド指定比較、同一キー比較に利用することができます。ファイル内の特定項目のみを比較する場合に効果的です。

■解析オプション

情報を抽出するCOBOL言語資産を設定します。



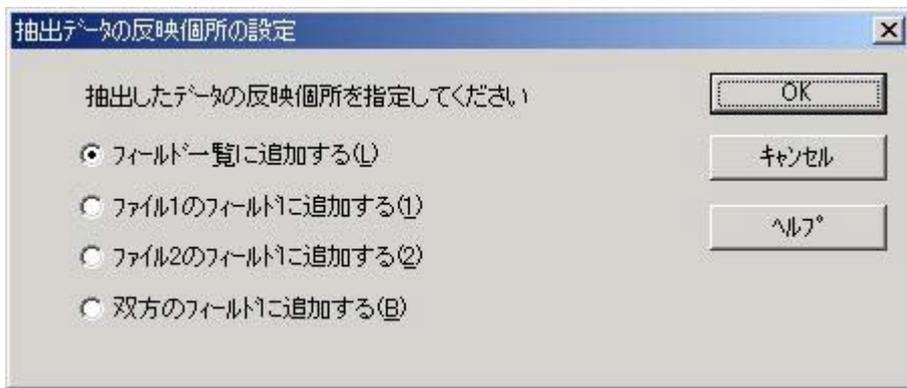
No	項目	内容
(1)	解析ファイル	フィールド情報を抽出する対象のCOBOL言語資産（登録集）のファイル名を指定します。
(2)	ファイル種別	比較条件設定で指定した比較対象のファイル種別を表示します。 バイナリの場合は、開始位置、長さ及び項目名を抽出します。 CSVの場合は、上記に加えて属性(文字列、数値)を抽出します。
(3)	繰り返し項目	繰り返し項目の展開有無を指定します。

[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[COBOL言語資産からのフィールド情報抽出]を選択します。
- 2) 「解析ファイル」を選択します。
- 3) 「繰り返し項目」を選択します。
- 4) 条件の設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。

■抽出データの反映個所の設定

COBOL言語資産から抽出したデータをフィールド情報に反映させます。



No	項目	内容
(1)	フィールド一覧に追加する	フィールド情報を候補として追加します。比較条件設定ウィザードを起動すると、フィールド一覧 ¹ と ² にはチェックオフの状態を追加されます。
(2)	ファイル1のフィールドに追加する	ファイル ¹ のみにフィールド情報を追加します。比較条件設定ウィザードを起動すると、フィールド一覧 ¹ にはチェックオンの状態を追加されます。
(3)	ファイル2のフィールドに追加する	ファイル ² のみにフィールド情報を追加します。比較条件設定ウィザードを起動すると、フィールド一覧 ² にはチェックオンの状態を追加されます。
(4)	双方のフィールドに追加する	ファイル ¹ と ² の両方にフィールド情報を追加します。比較条件設定ウィザードを起動すると、フィールド一覧 ¹ と ² にはチェックオンの状態を追加されます。

[操作手順]

- 抽出したデータの反映箇所を指定し、「OK」ボタンを押下します。
- 比較条件設定ウィザードを起動します。
- [[比較条件設定ウィザード - ファイルの設定](#)]画面が表示されます。
オプションには、「フィールド指定比較」がチェックされています。用途に合わせて、オプションを設定してください。
- 「フィールド指定比較」を設定した場合は、[[比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較](#)]画面で確認、追加した後に、比較を行ってください。
- 「同一キー比較」を設定した場合は、[[比較条件設定ウィザード - 同一キー比較](#)]画面で確認、追加した後に、比較を行ってください。

○ポイント

- COBOL登録集のファイルパスは最大244byteまでです。
- 解析できるCOBOL登録集は、COBOL文法上、正しく記述されていなければなりません。
- 一度フィールド情報を設定し、同じ比較条件ファイルに対して再度フィールド情報抽出、反映を行った場合、フィールド情報は上書きされます。ただし、チェックがオンになっている同一のフィールドは、その状態は上書きされずに残ります。

フォルダ比較の基本フロー

フォルダを比較する際の基本的な操作の流れを説明します。

1.VF-FILECOMPの起動

スタートメニューより「SIMPLIA VF-FILECOMP」を起動します。

2.環境設定

必要に応じてVF-FILECOMPでの動作環境の設定を行います。

- － [初期値の設定](#)
- － [拡張子毎の比較条件設定](#)

3.比較条件設定

フォルダ比較の比較条件設定を行います。また、ファイルメニュー内のファイル名履歴から比較条件ファイルを選択し、条件を読み込むことも可能です。

- － [比較条件設定ウィザード](#)－[フォルダ比較](#)

比較対象フォルダとオプションを設定します。

4.比較結果表示

比較条件設定後、[フォルダ比較結果](#)を表示します。比較結果から、さらにファイルの比較が可能です。

5.比較結果の印刷

比較結果を印刷します。印刷プレビューで確認後、印刷を行ってください。

6.比較条件ファイル、比較結果ファイルの保存

比較処理で設定した比較条件は、比較条件ファイルとして保存することができますので、同一条件で何度でも比較することができます。また、比較処理の結果は、比較結果ファイルとして保存することができますので、何度でも比較結果を表示することができます。

7.VF-FILECOMPの終了

VF-FILECOMPを終了します。

フォルダ比較

フォルダ比較を行うには、比較条件を設定します。比較条件設定ウィザードに従って設定を行ってください。

■比較条件設定ウィザード - フォルダ比較

比較対象のフォルダを設定します。

No	項目	内容
(1)	フォルダ1	比較対象となるフォルダ1を指定します。
(2)	フォルダ2	比較対象となるフォルダ2を指定します。
(3)	比較するファイルの拡張子	比較対象フォルダ内で比較するファイルの拡張子を設定します。「*」が設定されている場合は、すべての拡張子を指定します。拡張子をセミコロンで区切ることで、複数選択が可能です。5つの履歴を保持することができます。 また、[環境設定] - [拡張子毎の比較条件設定] で設定した拡張子を設定すると、その比較条件で比較します。[拡張子毎の比較条件設定] で比較条件の設定されていない拡張子はすべて「ファイル種別：バイナリ」、「レコード長：80」の比較条件で比較されます。 拡張子のないファイルを比較する場合は「*」を設定してください。
(4)	サブフォルダも比較する	指定されている比較対象フォルダのサブフォルダも比較します。チェックオフの場合は、指定されているフォルダ配下のファイルのみを比較します。
(5)	COBOL資産の比較をおこなう	比較対象となるフォルダ1/2に存在するCOBOL資産の比較をおこなう場合に指定します。このオプションを指定した場合は、「比較するファイルの拡張子」に、拡張子「cob;cbl;cobol」が自動設定されます。
(6)	正書法	「COBOL資産の比較をおこなう」を選択した場合、選択可能です。COBOL資産の書式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> － 可変長 － 固定長 － 自由長

[操作手順]

- 1) メニューの[ファイル]から[フォルダ比較]を選択します。[比較条件設定ウィザード-フォルダ比較]が起動します。
- 2) 比較対象フォルダを設定します。
- 3) 比較オプションを設定し、「完了」ボタンを押下します。
- 4) フォルダ比較画面が表示されます。

■フォルダ比較 - 比較処理中

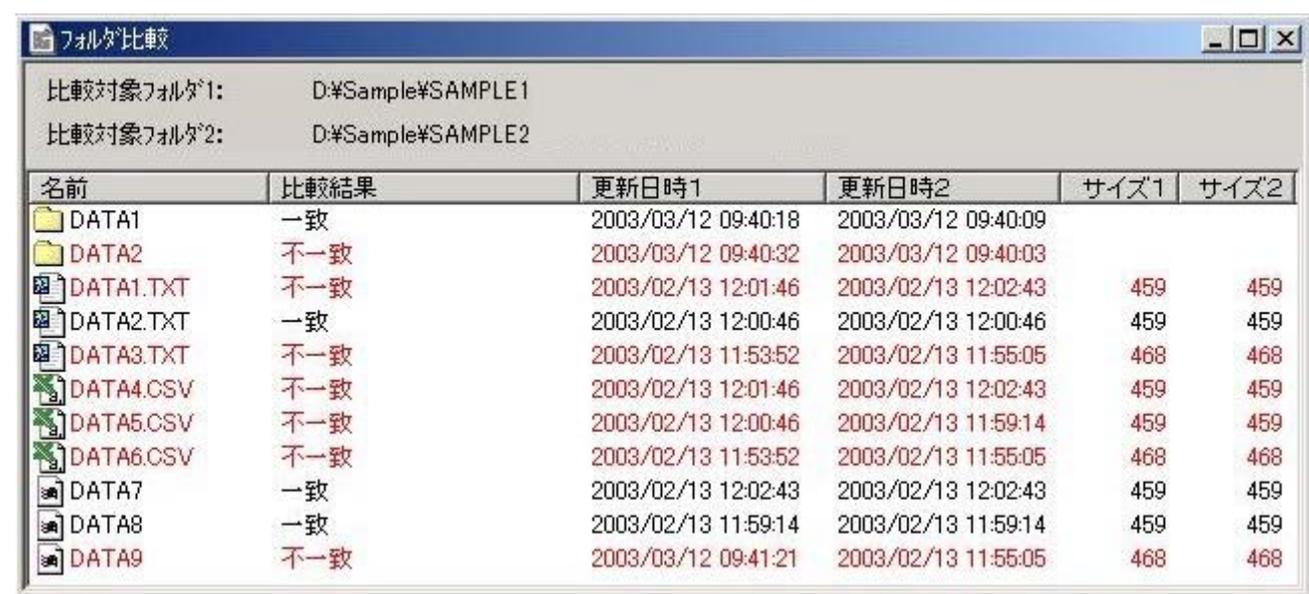
フォルダ比較処理状況を表示します。



No	項目	内容
(1)	比較対象ファイル1	現在比較処理中の比較対象ファイル1のファイル名を表示します。
(2)	比較対象ファイル2	現在比較処理中の比較対象ファイル2のファイル名を表示します。
(3)	比較処理ファイル数	指定した比較対象フォルダ2つの合計ファイル数を分母とし、比較処理が終わったファイル数を分子として表示します。
(4)	キャンセル	比較処理を中断します。

■フォルダ比較結果

比較条件設定完了後、比較結果を表示します。



No	項目	内容
(1)	比較対象フォルダ 1 2	比較条件設定で指定したフォルダ1・2のフルパスを表示します。

	ダ・	
(2)	名前	比較対象フォルダ配下のサブフォルダ名、ファイル名を表示します。(不一致の場合には赤字で表示します。)
(3)	比較結果	比較対象フォルダ配下の同一フォルダ名、同一ファイル名を比較した結果を表示します。 一致 : ファイルが同一であった場合 不一致 : ファイルに相違があった場合(赤字) 不一致(フォルダ1のみ存在) : 比較対象フォルダ1にしか存在しないファイルだった場合(赤字) 不一致(フォルダ2のみ存在) : 比較対象フォルダ2にしか存在しないファイルだった場合(赤字)
(4)	更新日時1・2	比較対象ファイル1・2の更新日時を表示します。不一致の場合には、赤字で表示します。
(5)	サイズ1・2	比較対象ファイル1・2のサイズを表示します。不一致の場合には、赤字で表示します。

- 不一致ファイルをダブルクリックすると、ファイル比較を行い、比較結果を表示します。
- 比較結果は印刷が可能です。

◆サブフォルダの比較結果

比較条件設定で「サブフォルダも比較する」にチェックをいれた場合は、サブフォルダの比較結果を表示します。



名前	比較結果	更新日時1	更新日時2	サイズ1	サイズ2
←一つ上へ	---	---	---		
DATA1.TXT	一致	2003/02/13 12:02:43	2003/02/13 12:02:43	459	459
DATA6.CSV	不一致(フォルダ1のみ存在)	2003/02/13 11:53:52		468	

- 不一致ファイルをダブルクリックすると、ファイル比較を行い、比較結果を表示します。
- <一つ上へ>をダブルクリックすると、一つ上のフォルダに戻ります。

サンプルデータでの動作確認手順

VF-FILECOMPに付属するサンプルデータの使用手順を以下に説明します。

■ファイル比較

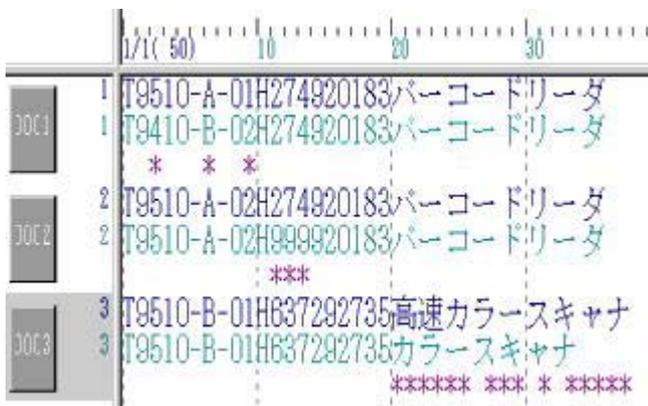
- (1) インストール先の「Sample」フォルダを別のフォルダにコピーします。
- (2) スタートメニューより「SIMPLIA VF-FILECOMP」を起動します。
- (3) 環境設定
初期フォルダ、作業用フォルダを初期値から変更する場合は、「初期値の設定」－「初期フォルダの設定」/「初期フォルダの設定」で、初期フォルダ、作業用フォルダを指定します。
- (4) メニューバーから「ファイル (F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「ファイル比較(F)」を選択します。
「比較条件設定ウィザード - ファイル種別の選択」が表示されます。
- (5) ファイル種別「バイナリ(I)」、比較オプション「フィールド指定比較(F)」を選択し、「次へ」ボタンを押下します。
- (6) 「比較条件設定ウィザード - ファイルの設定」では、以下のように設定します。

設定内容		
ファイル1	ファイル名	COPYT1.DAT
	レコード分離	レコード長
	レコード長	500
ファイル2	ファイル名	COPYT2.DAT
	レコード分離	レコード長
	レコード長	500

- (7) ファイル1及びファイル2内の参照ボタンを押下します。
- (8) 「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。
- (9) ファイル1のファイル名にはコピー先の「Sample」サブフォルダ内のサンプルデータファイル("COPYT1.DAT")を指定し、「開く」ボタンを押下します。
ファイル2のファイル名にはコピー先の「Sample」サブフォルダ内のサンプルデータファイル("COPYT2.DAT")を指定し、「開く」ボタンを押下します。
設定完了後、「次へ」ボタンを押下します。
- (10) 「比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較」では、以下のように設定します。
- (11) 「フィールド設定(S)」ボタンを押下します。
- (12) 「フィールド設定1」ダイアログボックスが表示されます。以下のように設定します。

フィールド	データ種別	バイナリ
	開始位置	1
	データ長	50

- (13) 「適用」ボタンを押下します。
- (14) フィールド一覧1に(1,-,50,)が反映されるので、フィールド一覧内の(1,-,50,)を選択し、比較対象2の「複写(P)」ボタンを押下します。
- (15) フィールド一覧2に(1,-,50,)が反映されます。双方にチェックがついてるのを確認し、「完了」ボタンを押下します。
比較結果は以下のとおりです。



この画面でVF-FILECOMPのファイル比較機能をお試しください。

- (15) VF-FILECOMPを終了するときは、メニューバーから「ファイル (F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA VF-FILECOMPの終了(X)」を選択します。

■フォルダ比較

- (1) インストール先の「Sample」フォルダを別のフォルダにコピーします。
- (2) スタートメニューより「SIMPLIA VF-FILECOMP」を起動します。
- (3) 環境設定

初期フォルダ、作業用フォルダを初期値から変更する場合は、「初期値の設定」→「初期フォルダの設定」/「初期フォルダの設定」で、初期フォルダ、作業用フォルダを指定します。

「[拡張子毎の比較条件設定](#)」で「追加」ボタンを押下し、以下の条件を「拡張子の設定」に設定します。

拡張子	sam1	sam2
ファイル種別	バイナリ	バイナリ
レコード分離	改行	レコード長
レコード長	-	50

- (4) リストに上記の条件が追加されたのを確認し、「OK」ボタンを押下します。
- (5) メニューバーから「ファイル (F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「フォルダ比較(L)」を選択します。

「[比較条件設定ウィザード - フォルダ比較](#)」が表示されます。

- (6) 比較対象フォルダにコピー先の「Sample」フォルダ配下の「Sample1」と「Sample2」を設定します。「比較するファイルの拡張子(X)」に「sam1;sam2」と入力し、「サブフォルダも比較する(C)」をチェックし完了ボタンを押下します。

比較結果は以下のとおりです。

比較対象フォルダ1:	D:\Sample\SAMPLE1				
比較対象フォルダ2:	D:\Sample\SAMPLE2				
名前	比較結果	更新日時1	更新日時2	サイズ1	サイズ2
DATA	---	2019/06/20 15:44:13	2019/06/20 15:44:14		
DATA1.sam1	不一致	2003/03/14 23:09:30	2019/06/12 13:53:22	575	499
DATA2.sam1	一致	2003/03/14 23:13:06	2003/03/14 23:13:06	577	577
DATA3.sam1	不一致	2003/03/14 23:23:16	2003/03/14 23:22:48	599	548

この画面でVF-FILECOMPのフォルダ比較機能をお試しください。

- (7) VF-FILECOMPを終了するときは、メニューバーから「ファイル (F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA VF-FILECOMPの終了(X)」を選択します。

ツールバー

VF-FILECOMPのツールバーについて以下に説明します。



	項目	コマンド	内容
ファイル	(1)	比較処理	「ファイル比較」、「フォルダ比較」のサブメニューが表示されます。
	(2)	開く：比較条件ファイル	既存の比較条件ファイルを開きます。
	(3)	開く：比較結果ファイル	既存の比較結果ファイルを開きます。
	(4)	上書き保存	作業中のファイルを上書きして保存します。
	(5)	名前を付けて保存：比較結果ファイル	作業中の比較結果ファイルに新しい名前を付けて保存します。
印刷	(6)	印刷	比較結果を印刷します。
	(7)	プレビュー	印刷イメージを表示します。
環境	(8)	比較条件設定	比較条件を設定します。
	(9)	環境設定	動作環境をを設定します。
比較	(10)	別ウィンドウで比較	比較処理を開始します。
表示	(11)	前の不一致表示	選択された不一致行の前の不一致部分に移動します。
	(12)	次の不一致表示	選択された不一致行の次の不一致部分に移動します。
	(13)	16進数表示	表示されたデータを16進数で表示します。
	(14)	詳細情報	比較結果に対する詳細な情報を表示します。
ヘルプ	(15)	VF-FILECOMP ヘルプ	オンラインマニュアルを表示します。

キーボード

当ツールには、以下のショートカットキーを割りつけています。

キーボード	内容
Ctrl+O	比較条件ファイルを開く
Ctrl+M	比較条件ファイル指定比較
Ctrl+S	比較結果ファイルの上書き保存
Shift+Tab	前の不一致を表示
Tab	次の不一致を表示
Home	不一致レコードの先頭を表示
End	不一致レコードの後尾を表示
Ctrl+Home	先頭レコードを表示
Ctrl+End	最終レコードを表示
PageUp	現在表示されている画面分前へ表示
PageDown	現在表示されている画面分次へ表示
Alt+F7	比較条件設定画面を表示
F7	別ウィンドウで比較を実行

注意事項

- 比較条件に指定できるファイル名の長さは、パス込みで250バイトまでです。また、[COBOL言語資産からのフィールド情報抽出]で設定する解析ファイルはパス込みで244バイトまでです。
 - 比較条件のファイル種別がバイナリの場合、比較対象ファイルのレコード長は32761バイト以上指定できません。
 - CSV比較では、比較対象フィールド長の合計が32760バイトまで比較することが可能です。
 - バイナリ比較およびCSV比較で同一キー比較を行う場合は、比較対象レコードと同一キーの合計が32760バイト以内でないと比較することができません。
 - レコード外にフィールド、同一キーを指定した場合、正常に比較することができません。
 - テキスト比較では、比較対象レコードが65536バイトまで比較することが可能です。ただし、比較ブラウザで表示できるのは1レコード1024バイトまでです。SJISで表示できないデータは表示することができません。
 - 最大不一致件数に指定できる値は、9,999までです。初期値は500です。
 - 比較範囲に指定できるフィールド数は最大1000です。
 - バイナリ比較では、最大10GBまでのファイルを扱うことができます。
 - テキスト比較では、最大5MBまでのファイルを扱うことができます。
 - 初期フォルダの設定/作業フォルダの設定(環境設定-初期値の設定)へ設定するフォルダは、本製品を使用するユーザーに書き込み権限のあるフォルダを設定してください。
 - テキスト比較では、機械的なロジックに基づいて比較処理を行っています。データ変更操作の履歴を考慮した比較ではないため、実際のデータ変更操作と比較結果に相違が出ることがあります。テスト結果の検証など厳密な比較結果を要求する場合は、バイナリ比較を利用してください。
- 【実際のデータ変更操作と比較結果に相違が出る例】

データ変更操作

ファイル1	ファイル2	
AAAAA	BBBBB	← "AAAAA" を "BBBBB" に変更
BBBBB	BBBBB	
BBBBB	BBBBB	
BBBBB	AAAAA	← "BBBBB" を "AAAAA" に変更
CCCCC	CCCCC	

比較結果

ファイル1	ファイル2	
	BBBBB	← "追加行"
	BBBBB	← "追加行"
	BBBBB	← "追加行"
AAAAA	AAAAA	
BBBBB		← "削除行"
BBBBB		← "削除行"
BBBBB		← "削除行"
CCCCC	CCCCC	

- 比較条件で指定された余り領域の文字設定に00を指定する場合は、比較対象ファイルのファイル種別

「バイナリ」、レコード分離改行コードを指定することができません。

比較結果として余り領域に設定した文字は表示されません。

- CSV比較では、比較対象の文字コードがUTF-8の場合、比較を行うことができますが半角文字以外の文字が画面に正しく表示されません。
比較結果ファイルを保存し、出力する比較結果ファイル(HTML形式)をブラウザ(Internet Explorer7.0以降)で確認してください。
- COBOL資産比較では、比較対象の文字コードがUCS2-LEまたはUCS2-BEの場合、第一水準・第二水準以外の漢字コードは表示および比較が正しく行われません。
- [比較条件設定ウィザード - フィールド指定比較]画面で指定したフィールドが、実際のレコード長を越えている場合、[比較設定ウィザード - ファイルの設定]画面の[詳細設定]で設定した余り文字が設定されます。
比較対象ファイル1と2の双方がレコード長を越えている場合、余り文字が設定されるため、比較結果は一致したものとして判断されます。
- 設定画面の比較範囲の設定で指定した範囲が重なっていても比較処理はエラーとなりません。

例

<フィールド指定1>

開始位置	:	1
データ長	:	10

<フィールド指定2>

開始位置	:	5
データ長	:	10

0000000001111111111

1234567890123456789

フィールド1 *********

フィールド2 *********

- [比較設定ウィザード - ファイルの設定]画面の[詳細設定]で設定した余り領域の文字が、比較処理で比較されると不一致として出力されます。
これは、余り領域なのか否かを表示上明確にするためです。
- 比較対象ファイルのファイル種別が「CSV」の場合、設定画面の比較対象ファイルの設定の区切り文字と比較範囲で指定するフィールドのデータ種別の関係は、以下のとおりです。
- 比較処理では、フィールドのデータ種別で実データが文字列かどうかを判断しています。
比較対象ファイルの設定で指定する区切り文字は、指定された区切り文字が比較範囲外であることをツールが認識するために指定します。
データ中には、フィールドの開始と終了に区切り文字があるものとして処理します。もし、開始のみ、終了のみにしか区切り文字がない場合は、比較対象のデータとして処理されます。
- 区切り文字の指定がないデータを比較する場合は、比較対象ファイルの設定の区切り文字に何を指定してもかまいません。
- 比較条件で指定したファイル種別と指定された比較対象ファイルのファイル種別が異なる場合、比較結果が正しく行われなため、出力された比較結果は保証されません。
- 同一キーの比較では、指定されたキー値毎に比較処理を行います。よって、ファイル上のレコードの並びが指定されたキー値で昇順でない場合、または、指定されたキーが重複して存在する場合は、正しい比較結果が得られない場合があります。
- 比較結果表示において、不一致箇所を示す"*"が一見正しくない場所に表示されることがあります。このような場合は、「表示」メニューより「16進数表示」を選択して、レコード内容の確認をしてください。

```

14/15/16/18(517/18/18(4)
cm+240・KK003cm+21・・・・+0・
cm+240・KK003cm-21・・・・+0・
* ← 不一致箇所がずれて表示されている

14/15/16/18(517/18/18(4)
cm+240・KK003cm+21・・・・+0・
536d2b3231ffffffffffff2b30ffff
cm+240・KK003cm-21・・・・+0・
536d2b3231ffffffffffff2b30ffff
16進数表示することにより、不一致内容を確認できる

```

- 比較結果表示時に「表示」メニューの「次の不一致表示」を選択した場合に、スクロールバーが適切に表示されずにレコードの先頭の表示が出来なくなることがあります。
このような場合は比較結果ウィンドウのサイズを変更することにより、表示されるようになります。
- 比較結果表示時にスクロールバーを押下し続けた場合、表示が崩れる場合があります。その場合は、一度比較結果を破棄し、再度比較を行ってください。
- テキスト比較で保存した比較結果ファイルは、VF-FILECOMPで再び表示することはできません。比較結果ファイルを直接参照してください。
- 比較結果の印刷時、印刷プレビューを表示せずに用紙方向を変更すると、すべての枚数を印刷することが出来ないことがあります。
用紙方向を変更する場合は、印刷プレビューで表示状態を確認してから印刷してください。
- VF-FILECOMPが生成したファイル、またはフォルダは編集、削除を行わないでください。比較、比較結果表示の不具合の原因となります。
- テキスト／COBOL資産の比較では、タブは4空白として扱われます。
- バイナリ比較では、以下のコード範囲を使用した文字が表示できない場合があります。
 - ・U+0000～U+001F Basic Latin (基本ラテン文字)領域
 - ※VF-FILECOMPでは文字表示にシステムロケールを使用しています。
- VF-FILECOMPで生成したファイルの拡張子が下記以外の場合、正しく動作しない場合があります。
 - ・比較結果ファイルを保存する際は、「CSV」または「HTM」の拡張子では保存ができません。左記以外の拡張子に変更し、保存をして下さい。
 - ・比較結果ファイルの読込を行なった際に比較結果表示または正しく比較が行われな場合は、拡張子をファイル比較結果の場合「CMR」、フォルダ比較結果の場合「COR」に変更し、再度読込を行って下さい。

はじめに

概要

- 背景と開発目的
 - 比較の単位と種類
-

メニュー説明

- [ファイル]
 - [表示]
 - [比較]
 - [オプション]
 - [ウィンドウ]
 - [ヘルプ]
-

操作手順

- ファイル比較
 - ファイル比較の基本フロー
 - 環境設定をするには？
 - ファイル比較を行うには？
 - ファイル比較のオプションについて
 - フィールド指定比較とは？
 - 同一キー比較とは？
 - UNICODEファイルと比較するには？
 - 比較条件設定ウィザード
 - ファイル種別の選択
 - ファイルの設定
 - フィールド指定比較
 - 同一キー比較
 - テキスト比較
 - 比較結果の表示とは？
 - テキスト/COBOL資産の比較方法
 - バイナリ比較
 - 比較結果の表示とは？
 - 16進数表示を行うには？
 - 詳細情報を表示するには？
 - 不一致部分を表示するには？
 - 比較結果を印刷するには？
 - 比較条件ファイルを連続して実行するには？
 - バッチモードで比較するには？
 - COBOL言語資産からのフィールド情報を抽出するには？
 - フォルダ比較
 - フォルダ比較の基本フロー
 - 環境設定をするには？
 - フォルダ比較を行うには？
 - 比較結果の表示とは？
 - COBOL資産の比較方法
 - バッチモードで比較するには？
-

使用方法

[サンプルデータでの動作確認手順](#)

[ツールバー](#)

[キーボード](#)

補足事項

[注意事項](#)

項目	説明
比較条件ファイル(J)	既存の比較条件ファイルを開きます。 ファイル比較の条件ファイルは(*.cmc)、フォルダ比較の条件ファイルは(*.coc)を選択します。
比較結果ファイル(K)	既存の比較結果ファイルを開きます。 ファイル比較の結果ファイルは(*.cmr)、フォルダ比較の結果ファイルは(*.cor)を選択します。

項目	説明
比較条件ファイル(J)	現在開いている比較条件ファイルを閉じます。
比較結果ファイル(K)	現在開いている比較結果ファイルを閉じます。

コマンド - [ファイル]メニュー - 名前を付けて保存

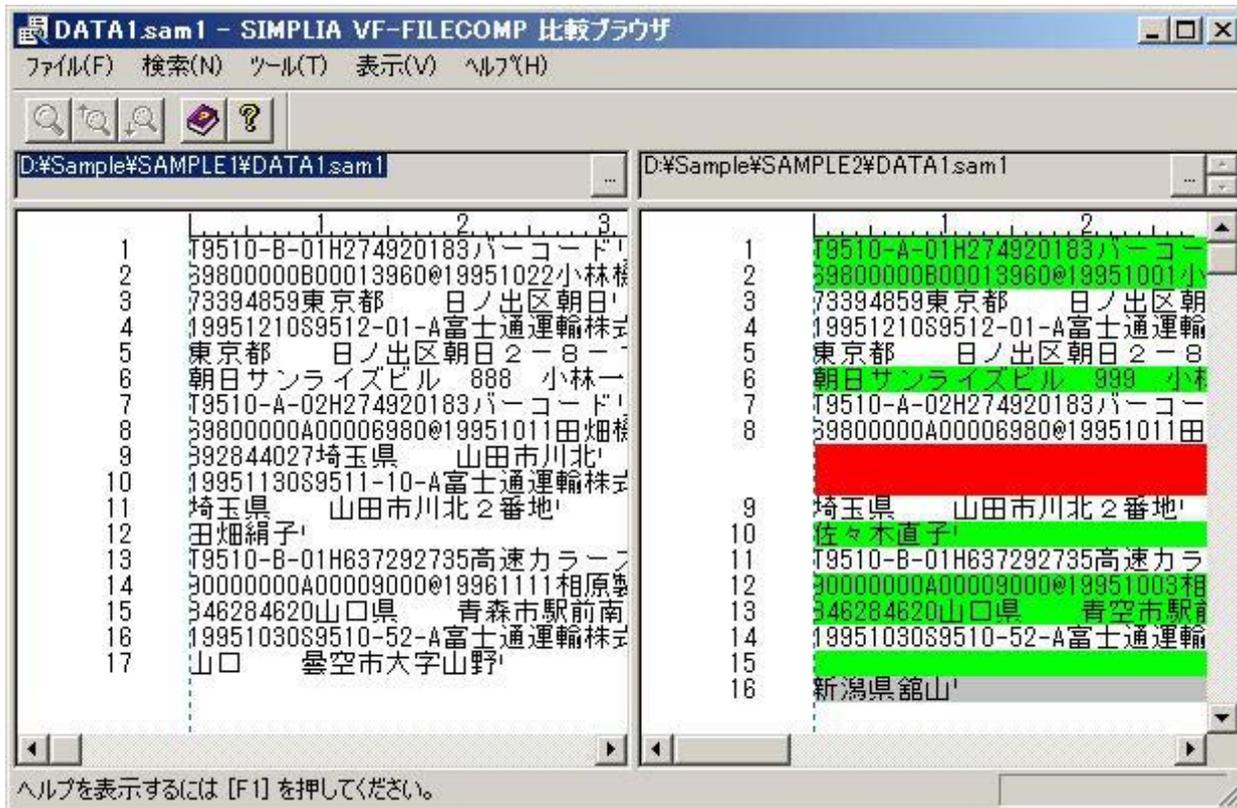
項目	説明
比較条件ファイル(J)	作業中の比較条件ファイルに新しい名前を付けて保存します。ファイル比較は拡張子「.cmc」、フォルダ比較は拡張子「.coc」を設定します。
比較結果ファイル(K)	作業中の比較結果ファイルに新しい名前を付けて保存します。ファイル比較は拡張子「.cmr」、フォルダ比較は拡張子「.cor」を設定します。

比較ブラウザとは

SIMPLIA VF-FILECOMP 比較ブラウザは、ファイル1のテキストファイルとファイル2のテキストファイルを比較し、不一致箇所を確認するためのツールです。比較ブラウザでは以下の機能を提供します。

- ・テキストファイルの比較
- ・テキストファイルの不一致箇所をマーキング表示（右画面）
- ・文字列の検索

比較ブラウザでの比較結果画面は以下になります。



ファイル比較結果を左右に表示し、不一致箇所を背景色で示します。左がファイル1、右がファイル2です。

背景色は初期設定で以下のようになっています。背景色は変更することができます。

色	背景色の初期値
■	更新行
■	削除行
■	挿入行

比較結果ファイルの種類

比較結果ファイルは、比較ファイルの種別毎に以下の形式のファイルを出力します。

ファイル種別	比較結果ファイル		
	比較結果ファイル	比較結果ファイルCSV形式	比較結果ファイルhtm形式
テキスト比較 (COBOL資産比較を含む)	比較結果を保存時に指定した格納先・ファイル名でテキスト形式で出力します。 (保存時に拡張子を指定しない場合は「cmr」で出力します)	比較結果を保存時に指定した格納先・ファイル名の拡張子を「csv」としたファイル名でCSV形式で出力します。	比較結果ファイルhtm形式のファイルは出力しません。
バイナリ比較	比較結果を保存時に指定した格納先・ファイル名でテキスト形式で出力します。 (保存時に拡張子を指定しない場合は「cmr」で出力します)	比較結果を保存時に指定した格納先・ファイル名の拡張子を「csv」としたファイル名でCSV形式で出力します。	比較結果ファイルhtm形式のファイルは出力しません。
CSV比較	比較結果を保存時に指定した格納先・ファイル名でテキスト形式で出力します。 (保存時に拡張子を指定しない場合は「cmr」で出力します)	比較結果ファイルCSV形式のファイルは出力しません。	比較結果を保存時に指定した格納先・ファイル名の拡張子を「htm」としたフォルダを作成し、そのフォルダにindex.htmを出力します。

■比較結果ファイルの出力例

CSV比較で出力した比較結果ファイルhtm形式の出力例を以下に示します。

1) 初期表示(index.htm起動時)またはリンク「比較条件」をクリック時の出力内容

SIMPLIA VF-FILECOMP V60L44 比較結果 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

比較結果ファイル C:¥DATA¥結果¥SAMPLE.cmr (1)

比較対象ファイル 1 C:¥DATA¥CSV比較¥data1.csv

比較対象ファイル 2 C:¥DATA¥CSV比較¥data2.csv

CONTENT (2)

比較条件

不一致レコード
比較 1 - 比較 2

1-1
2-2
3-3
4-4

実施日	比較を行った日	2006.07.10
	比較を行った時間	16:01:57
処理結果	読み込み件数 - 1	4
	読み込み件数 - 2	4
	比較件数	4
	一致件数	0
	不一致件数	4
比較条件	比較条件ファイル	C:¥DATA¥結果¥SAMPLE.cmc
	比較基準コード	SJIS
設定内容	ファイル種別	CSV
	レコード番号桁数	8
	フィールド情報のNOT指定	なし
	比較対象ファイル 1	C:¥DATA¥CSV比較¥data1.csv
	比較範囲 1	[1, 数値, 1, 連番] [2, 文字列, 8, 英数字名称] [3, 文字列, 10, 日本語名称]
	レコード分離 1	改行
	区切り文字 1	,
	引用符文字 1	"
	比較対象ファイル 2	C:¥DATA¥CSV比較¥data2.csv
	比較範囲 2	[1, 数値, 1, 連番] [2, 文字列, 8, 英数字名称] [3, 文字列, 10, 日本語名称]
	レコード分離 2	改行
	区切り文字 2	,
引用符文字 2	"	
実行指定	不一致件数	500
	空白とLOW-VALUEを区別する	
	余り文字領域	FF
レコード条件指定	同一キー値 1	[4, 数値, 8, 日付]
	同一キー値 2	[4, 数値, 8, 日付]

NO	項目	内容
(1)	見出し	比較の入力ファイル名（比較対象ファイル1・比較対象ファイル2）、および出力ファイル（比較結果ファイル）名を絶対パスで表示します。
(2)	CONTENT	(3)の表示内容（比較条件指定内容または不一致レコード内容）の切り換えを行います。 ・初期表示(index.htm起動時)またはリンク「比較条件」をクリック時の表示内容は比較条件指定内容を表示します。 ・リンク「不一致レコード」をクリック時の表示内容は選択したレコードの不一致内容を表示します。
(3)	比較条件	比較条件設定ウィザードで指定した内容を表示します。 ・レコード条件指定欄は、同一キー指定した場合のみ出力します。

2) リンク「不一致レコード」をクリック時の表示内容

SIMPLIA VF-FILECOMP V60L44 比較結果 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

比較結果ファイル C:¥DATA¥結果¥SAMPLE.cmr (1)
 比較対象ファイル 1 C:¥DATA¥CSV比較¥data1.csv
 比較対象ファイル 2 C:¥DATA¥CSV比較¥data2.csv

CONTENT (2)

比較条件

不一致レコード
 比較 1 - 比較 2

1-1
 2-2
 3-3
 4-4

■同一キー情報 (3)

比較対象	レコード番号	位置	長さ	項目名	レコード内容
					-----+-----
同一 キー値 1	1	4	8	日付	+20030529 233333333 B20030529
同一 キー値 2	1	4	8	日付	+20030529 233333333 B20030529

■フィールド情報

比較対象	レコード番号	位置	長さ	項目名	レコード内容
					--
ファイル 1	1	1	1	連番	+1 23 B1
ファイル 2	1	1	1	連番	+1 23 B1
不一致バイト					

比較対象	レコード番号	位置	長さ	項目名	レコード内容
					-----+-----
ファイル 1	1	2	8	英数字名称	SAMPLE-A 54454424 31D0C5D1
ファイル 2	1	2	8	英数字名称	SAMPLE-a 54454426 31D0C5D1
不一致バイト					*

比較対象	レコード番号	位置	長さ	項目名	レコード内容
					-----+-----1
ファイル 1	1	3	10	日本語名称	サンプル A 8589878886 3433363B20
ファイル 2	1	3	10	日本語名称	サンプル a 8589878888 3433363B21
不一致バイト					*

NO	項目	内容
(1)	見出し	比較の入力ファイル名（比較対象ファイル1・比較対象ファイル2）、および出力ファイル（比較結果ファイル）名を絶対パスで表示します。
(2)	CONTENT	(3)の表示内容（比較条件指定内容または不一致レコード内容）の切り換えを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・初期表示(index.htm起動時)またはリンク「比較条件」をクリック時の表示内容は比較条件指定内容を表示します。 ・リンク「不一致レコード」をクリック時の表示内容は選択したレコードの不一致内容を表示します。
(3)	比較結果	選択したレコードの不一致内容を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・同一キー情報は、同一キー指定した場合のみ出力します。 ・フィールド情報は、フィールド指定の比較結果内容を表示します。 ・項目名は、フィールド指定または同一キー指定でコメントを指定した場合のみ表示します。 ・不一致となった部分は比較対象がファイル1の場合、文字色を青色で表示し、ファイル2の場合、文字色を赤色で表示します。 また、不一致バイト欄に「*」で出力します。

環境設定の方法 2

VF-FILECOMPの動作に関する環境設定を行います。 [環境設定の方法 1](#)も参照してください。

■拡張子毎の比較条件設定

拡張子毎に比較条件を設定することができます。ここで設定された条件はフォルダ比較時に有効です。条件が設定されていない拡張子は、ファイル種別「バイナリ」、レコード長「80」の条件で比較します。

同一の拡張子を設定した場合は、上位の設定が有効となります。



No	項目	内容
(1)	拡張子毎の比較条件一覧	設定されている拡張子毎の比較条件設定を表示します。
(2)	追加	拡張子毎の比較条件を新規に追加します。条件を設定する「拡張子の設定」ダイアログが表示されます。
(3)	編集	設定されている拡張子の条件を変更する場合は、「拡張子毎の比較条件リスト」に設定されている比較条件をひとつ選択し「編集」ボタンを押下します。「拡張子の設定」ダイアログが表示され、選択した比較条件を編集することができます。
(4)	削除	既に設定されている拡張子の条件を削除する場合は、「拡張子毎の比較条件リスト」に設定されている比較条件をひとつ選択し「削除」ボタンを押下します。「拡張子毎の比較条件リスト」から比較条件を削除します。

【操作手順】

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
- 2) タブ「拡張子毎の比較条件設定」を選択します。
- 3) 「拡張子毎の比較条件一覧」に、設定されている拡張子の条件を表示します。
- 4) 「追加」、「編集」、「削除」ボタンを使用し、比較条件を設定します。
- 5) 比較条件の設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。

■拡張子の設定

拡張子の比較条件設定します。

拡張子の設定

拡張子に比較条件を設定します。

拡張子(O): ファイル種別(E):

レコード分離(L): レコード長(T):

OK キャンセル ヘルプ

No	項目	内容
(1)	拡張子	条件を設定する拡張子を入力します。半角英数字で250文字まで入力が可能です。
(2)	ファイル種別	- バイナリファイル レコードの区切りがないファイル。レコード長の指定が必要。 または、レコードの最後にある改行コードがあるファイル。
(3)	レコード分離	比較対象ファイルの「レコード分離」を設定します。 「改行」または「レコード長」を指定します。 「改行コード」を指定すると以下の改行コードを識別します。 - 復帰改行 : CRLF (0x0d0a) - 復帰 : CR (0x0d) - 改行 : LF (0x0a) 「レコード長」を指定すると以下の範囲で指定できます。 - 1から32760
(4)	レコード長	比較対象ファイルのレコード長を設定します。「レコード分離」で「レコード長」を選択した場合のみ設定が可能です。1から32760までの設定が可能です。

【操作手順】

- 1) 拡張子の比較条件の設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
- 2) 「拡張子毎の比較条件一覧」に条件が追加されます。

■フォルダ比較方法の設定

フォルダ比較の不一致判定方法を指定します。ここで設定された条件はフォルダ比較時に有効です。

環境設定

初期値の設定 印刷時の初期値設定 拡張子毎の比較条件設定

比較対象ファイル文字コード設定 テキスト比較方法選択 フォルダ比較方法選択

ファイル判定方法

ファイルサイズにより不一致を判定する(COBOL資産比較は除外する)

全てファイル内容を判定し、不一致を判定する

不一致情報のCSV出力

出力する

出力しない

OK キャンセル ヘルプ

No	項目	内容

(1)	ファイルサイズにより不一致を判定する (COBOL資産比較は除外する)	当オプションが指定された場合は、ファイルサイズが相違時に不一致と判断しファイル内容の比較は行いません。 ただし、ファイルサイズが一致した場合、またはフォルダ比較時に「COBOL資産の比較をおこなう」を選択した場合は、当オプションが指定された場合でもファイル内容の比較を行います。 なお、当オプションが選択された場合は、「不一致情報のCSV出力」のオプションは「出力しない」を選択されたものとし、オプションの指定はできません。
(2)	全てファイル内容を判定し、不一致を判定する	当オプションが指定された場合は、ファイルサイズの一致、不一致に関わらずファイル内容を比較します。 なお、当オプションが選択された場合は、「不一致情報のCSV出力」のオプションが指定が可能となります。
(3)	出力する	当オプションが指定された場合は、フォルダ比較の不一致情報のCSV形式で出力します。
(4)	出力しない	当オプションが指定された場合は、フォルダ比較の不一致情報のCSV形式では出力しません。

[操作手順]

- 1)メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
 - 2)タブ「フォルダ比較方法選択」を選択します。
 - 3)ファイル判定方法を設定します。
 - 4)不一致情報のCSV出力を設定します。
 - 5)比較条件の設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
- *4)はファイル判定方法で「ファイルサイズにより不一致を判定する」を選択した場合のみ設定が可能です。

■比較ブラウザ - 文字列を検索する

目的の文字や語句を探します。

検索

検索する文字列(N):

単語単位で探す(W)

大文字と小文字を区別する(C)

検索する方向

上へ(U) 下へ(D)

次を検索(F)

キャンセル

ヘルプ(H)

No	項目	内容
(1)	検索する文字列	検索する文字あるいは語句を入力します。
(2)	単語単位で探す	検索する文字あるいは語句を、単語として検索するときに指定します。
(3)	大文字と小文字を区別する	検索する文字あるいは語句を、大文字と小文字を区別して検索するときに指定します。
(4)	検索する方向	カーソル位置から前方あるいは後方のどちらへ向かって検索するかを指定します。

【操作手順】

- 1) 検索を始める位置へカーソルを移動します。
- 2) [検索] メニューの [検索] コマンドを選択します。
- 3) [検索する文字列] テキストボックスに検索する文字や語句を入力します。
- 4) 単語単位で検索するときは、[単語単位で探す] チェックボックスを選択して×印を付けます。
- 5) 大文字と小文字を区別するときは、[大文字と小文字を区別する] チェックボックスを選択して×印を付けます。
- 6) 検索方向を指定するとき、[上へ] あるいは [下へ] オプションボタンを押します。
- 7) [次を検索] ボタンを押します。
- 8) 同じ文字列をもう一度検索するときは、[検索] メニューの [次を検索] コマンドあるいは [前を検索] コマンドを選択します。

■比較ブラウザ - カーソル移動

◆カーソルを移動する

[矢印 (↑、↓、←、→)] キーで移動します。あるいは、移動先の位置でマウスの左ボタンをクリックします。

◆カーソルを行の先頭へ移動する

[Home] キーでカーソル位置の行の先頭へ移動します。あるいは、行の先頭位置でマウスの左ボタンをクリックします。

◆カーソルを行の末尾へ移動する

[End] キーでカーソル位置の行の末尾へ移動します。あるいは、行の末尾位置でマウスの左ボタンをクリックします。

◆カーソルを指定した行へ移動する

カーソル位置を指定した行位置へ移動します。



No	項目	内容
(1)	ジャンプ先	編集集中のテキスト内の移動したい行を入力します。 編集しているテキストの行数が指定した数字より少ない場合、最終行へ移動します。
(2)	行番号	1から始まるファイル先頭からの行位置と認識します。

[操作手順]

- 1) [検索] メニューの [ジャンプ] コマンドを選択します。
- 2) [ジャンプ先] テキストボックスで行を指定します。
- 3) [ジャンプ] ボタンを押します。

■比較ブラウザ -比較結果を印刷する

修正前後のテキストファイルの比較結果を印刷します。

比較結果の印刷を行うには、比較リストを起動します。比較リストとは、差分を表示または印刷するために比較ブラウザから呼び出されるユーティリティです。

[操作手順]

- 1) [ツール] メニューの [比較リスト起動] コマンドを選択すると、比較リストが起動されます。
- 2) 比較リストのヘルプにしたがって、操作してください。

■比較ブラウザ – 環境を設定する

◆フォントを変更する

編集中のテキストを表示するフォントを指定します。



No	項目	内容
(1)	フォント名	フォントの名前を入力あるいはフォント名リストから選択します。
(2)	スタイル	フォントの形を入力あるいはスタイルリストから選択します。
(3)	サイズ	フォントの大きさを入力あるいはサイズリストから選択します。
(4)	サンプル	選択中のフォントを表示します。
(5)	文字セット	表示する言語の種類を選択します。

[操作手順]

- 1) [ツール] メニューの [フォント] コマンドを選択します。
- 2) [フォント] ダイアログボックスで、フォント、スタイル、サイズを選択します。欧文フォントを選択すると、日本語が表示できなくなります。
- 3) [OK] ボタンを押してフォントを変更します。

◆表示色を変更する

表示するテキストの色を指定します。



No	項目	内容
(1)	文字の種類	色の指定する部分を選択します
(2)	色の選択	[文字の種類] で選択しているところに使用する色を指定します。 色の箱をクリックして選択します。 [システム色] をクリックするとシステムの標準の設定になります。
(3)	すべてリセット	デフォルトの設定に戻ります。



No	項目	内容
(1)	行の種類	色の指定する部分を選択します。
(2)	色の選択	[行の種類] で選択しているところに使用する色を指定します。 色の箱をクリックして選択します。 [システム色] をクリックするとシステムの標準の設定になります。
(3)	すべてリセット	デフォルトの設定に戻ります。

[操作手順]

- 1) [ツール] メニューの [色] コマンドを選択します
- 2) [カラー] ダイアログボックスで、前景と背景の色を選択します。
- 3) [OK] ボタンを押して色を変更します。

◆ステータスバーについて

機能の簡単な説明や環境の状態を表示します。

説明メッセージ(左下)：メニュー項目やツールバーボタンのアイコンについての簡単な説明を表示します。

カーソルの位置(右下)：現在のカーソルの位置を先頭からの行数、および行の先頭からの桁数で表示します。

比較ブラウザ - リファレンス

◆ [ファイル] メニューのコマンド

[ファイル] メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
比較ブラウザの終了(X)	比較ブラウザを終了します。

◆ [検索] メニューのコマンド

[検索] メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
検索(F)	目的の文字や語句を探します。
次を検索(N)	カーソルの後方にある文字や語句を探します。
前を検索(P)	カーソルの前方にある文字や語句を探します。
ジャンプ(G)	カーソル位置を任意の行へ移動します。

◆ [ツール] メニューのコマンド

[ツール] メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
フォント(F)	表示するフォントを設定します。
色(C)	表示する色を設定します。
比較リスト起動(E)	比較リストを起動します。

◆ [表示] メニューのコマンド

[表示] メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
相対行(L)	相対行の表示、非表示を切り替えます。相対行が表示されているときは、このコマンド名の横にチェックマークが表示されます。
次のウィンドウへ(N)	カーソルを次のウィンドウへ移動します。
前のウィンドウ(P)	カーソルを前のウィンドウへ移動します。
ツールバー(T)	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。ツールバーが表示されているときは、このコマンド名の横にチェックマークが表示されます。
ステータスバー(S)	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。ステータスバーが表示されているときは、このコマンド名の横にチェックマークが表示されます。

◆ [ポップアップ] メニューのコマンド

比較ブラウザ上でマウスを右クリックすると表示されるポップアップメニューには、以下のコマンドがあります。

項目	説明
次を検索(N)	カーソルの後方にある文字や語句を探します。
前を検索(P)	カーソルの前方にある文字や語句を探します。
比較リスト起動(E)	比較リストを起動します。

比較ブラウザ - リファレンス

◆ショートカットキーの一覧

キーの組合せ（ショートカットキー）やファンクションキーにより、いくつかの機能を実現することができます。

キーボード	内容
F3	カーソルの後方にある文字や語句を探します。[検索]メニューの[次を検索]コマンドと同様の操作を行います。
Ctrl+F	目的の文字や語句を探します。[検索]メニューの[検索]コマンドと同様の操作を行います。
Ctrl+G	カーソル位置を任意の行へ移動します。[検索]メニューの[ジャンプ]コマンドと同様の操作を行います。
Shift+F3	カーソルの前方にある文字や語句を探します。[検索]メニューの[前を検索]コマンドと同様の操作を行います。

◆ツールバーからコマンドを実行する

ツールバーには以下のツールボックスがあります。

	コマンド	内容
	検索	目的の文字や語句を探します。[検索]メニューの[検索]コマンドと同じです。
	次を検索	カーソルの後方にある文字や語句を探します。[検索]メニューの[次を検索]コマンドと同様の操作を行います。
	前を検索	カーソルの前方にある文字や語句を探します。[検索]メニューの[前を検索]コマンドと同様の操作を行います。

比較リストとは

SIMPLIA VF-FILECOMP 比較リストとは、不一致を表示または印刷するために比較ブラウザから呼び出されるユーティリティです。

「ファイル1」と「ファイル2」にそれぞれデータを表示します。「区分」個所に変更後の状態を表示します。

* 「ファイル1」の「区分」には何も表示されません。

No.	区分	ファイル1	区分	ファイル2
1		T9510-B-01H274920183バーコードリーダ	更新	T9510-A-01H274920183バーコードリーダ
2		698000000800013960@19951022小林機械株式会社	更新	698000000800013960@19951001小林機械株式会社
3		73394859東京都 日ノ出区朝日		73394859東京都 日ノ出区朝日
4		19951210S9512-01-A富士通運輸株式会社		19951210S9512-01-A富士通運輸株式会社
5		東京都 日ノ出区朝日 2-8-1		東京都 日ノ出区朝日 2-8-1
6		朝日サンライズビル 888 小林一男	更新	朝日サンライズビル 999 小林一男
7		T9510-A-02H274920183バーコードリーダ		T9510-A-02H274920183バーコードリーダ
8		698000000A00006980@19951011田畑機器株式会社		698000000A00006980@19951011田畑機器株式会社
9		392844027埼玉県 山田市川北	更新	
10		19951130S9511-10-A富士通運輸株式会社	削除	
11		埼玉県 山田市川北 2番地		埼玉県 山田市川北 2番地
12		田畑絹子	更新	佐々木直子
13		T9510-B-01H637292735高速カラスキャナ		T9510-B-01H637292735高速カラスキャナ
14		900000000A00009000@19961111相原製作所	更新	900000000A00009000@19951003相原製作所
15		846284620山口県 青森市駅前南	更新	846284620山口県 青空市駅前南
16		19951030S9510-52-A富士通運輸株式会社		19951030S9510-52-A富士通運輸株式会社
17		山口 曇空市大字山野	更新	
18			追加	新潟県 籠山

ヘルプを表示するには [F1] を押ししてください。

NUM

■比較リスト - 印刷するには

[操作手順]

現在の表示設定のまま印刷する場合

[ファイル] メニューの [印刷] コマンドをクリックします。

印刷イメージを確認してから印刷する場合

- 1) [ファイル] メニューの [印刷プレビュー] コマンドをクリックすると、印刷イメージが表示されます。
- 2) このまま印刷してもよいならば [印刷] ボタンをクリックします。

注意

- ・ プリンタが接続されていない場合、[印刷] コマンド、[印刷プレビュー] コマンドは使用できません。

■比較リスト - 印刷イメージを確認するには

[操作手順]

[ファイル] メニューの [印刷プレビュー] コマンドをクリックすると、印刷イメージが表示されます。

注意

- ・ プリンタが接続されていない場合、[印刷プレビュー] コマンドは使用できません。

■比較リスト - プリンタの設定をするには

[操作手順]

[ファイル] メニューの [プリンタの設定] コマンドをクリックすると、システム標準のプリンタの設定ダイアログボックスを呼び出します。

注意

- ・ プリンタが接続されていない場合、[プリンタの設定] コマンドは使用できません。

■比較リスト - 表示色を指定するには

修正前後のテキストファイルの比較結果を印刷します。

◆表示色を変更する

表示するテキストの色を指定します。



No	項目	内容
(1)	文字の種類	色の指定する部分を選択します。
(2)	色の選択	[文字の種類] で選択しているところに使用する色を指定します。 色の箱をクリックして選択します。 [システム色] をクリックするとシステムの標準の設定になります。
(3)	すべてリセット	デフォルトの設定に戻ります。



No	項目	内容
(1)	行の種類	色の指定する部分を選択します。
(2)	色の選択	[行の種類] で選択しているところに使用する色を指定します。 色の箱をクリックして選択します。 [システム色] をクリックするとシステムの標準の設定になります。
(3)	すべてリセット	デフォルトの設定に戻ります。

[操作手順]

- 1) [オプション] メニューの [色の設定] コマンドをクリックして、[カラー] ダイアログボックスを表示します。
- 2) 編集画面の各種部分に用いる色を指定します。
- 3) [OK]

ボタンを押して色を変更します。

■比較リスト - 表示形式を変更する

比較リストで表示されている、「区分」、「データ」の表示幅を変更することができます。



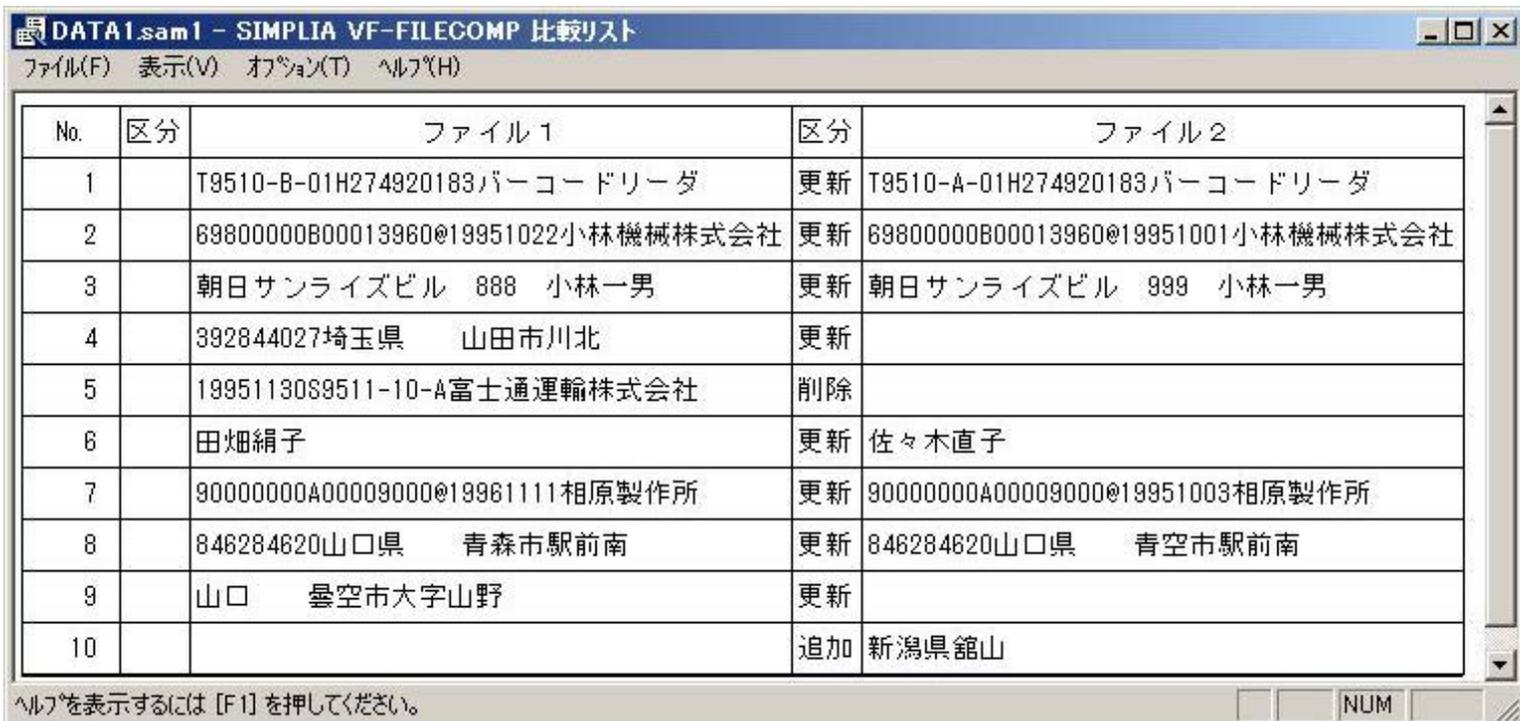
No	項目	内容
(1)	区分表示幅	区分表示域の表示幅を指定します。4 から 9 までの値を指定することができます。
(2)	データ表示幅	変更前および変更後のデータ表示域の表示幅を指定します。32 から 255 までの値を指定することができます。

[操作手順]

- 1) [オプション] メニューの [表示形式の設定] コマンドをクリックして、[表示形式] ダイアログボックスを表示します。
- 2) 任意の値を設定します。

■比較リスト - 差分のみの表示に切り替えるには

全体表示されている場合は、差分のみの表示に切り替えることができます。



[操作手順]

- 1) [表示] メニューの [差分表示] コマンドをクリックします。
- 2) 差分のみの結果が表示されます。

■比較リスト – すべての行の表示に切り替えるには

差分表示されている場合は、すべての行の表示に切り替えることができます。

[操作手順]

- 1) [表示] メニューの [全体表示] コマンドをクリックします。
- 2) 結果をすべて表示します。

■比較リスト – 表示フォントを指定するには

◆フォントを変更する

比較リストを表示するフォントを指定します。



No	項目	内容
(1)	フォント名	フォントの名前を入力あるいはフォント名リストから選択します。
(2)	スタイル	フォントの形を入力あるいはスタイルリストから選択します。
(3)	サイズ	フォントの大きさを入力あるいはサイズリストから選択します。
(4)	サンプル	選択中のフォントを表示します。
(5)	文字セット	表示する言語の種類を選択します。

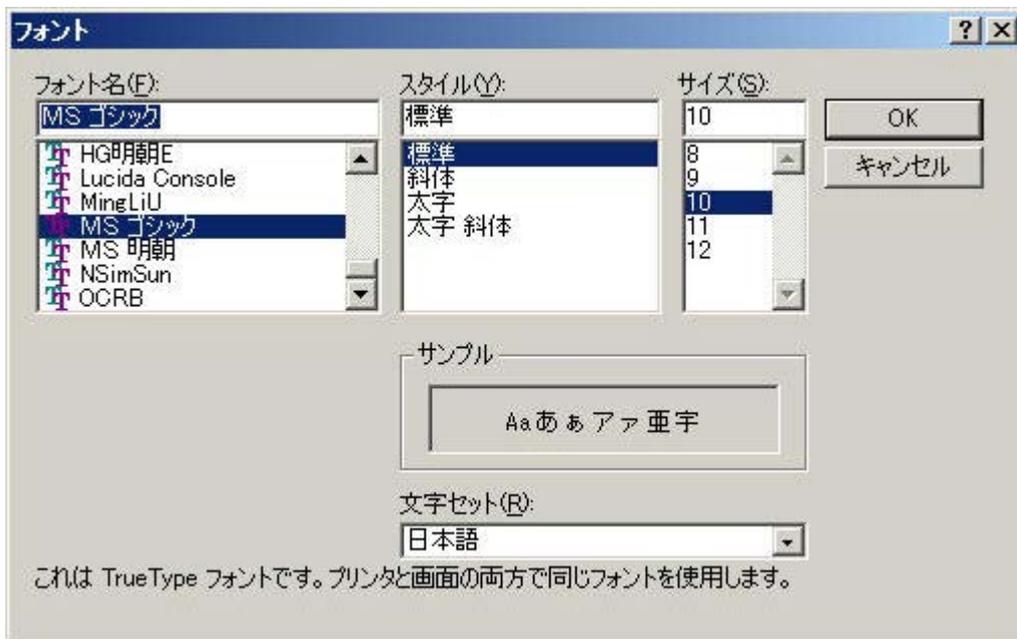
[操作手順]

- 1) [オプション] メニューの [表示フォントの設定] コマンドをクリックして、[フォント] ダイアログボックスを表示します。
- 2) 表示に使用するフォント、スタイル、サイズを指定します。
- 3) [OK] ボタンを押してフォントを変更します。

■比較リスト – 印刷フォントを指定するには

◆フォントを変更する

比較リストを印刷するフォントを指定します。



No	項目	内容
(1)	フォント名	フォントの名前を入力あるいはフォント名リストから選択します。
(2)	スタイル	フォントの形を入力あるいはスタイルリストから選択します。
(3)	サイズ	フォントの大きさを入力あるいはサイズリストから選択します。
(4)	サンプル	選択中のフォントを表示します。
(5)	文字セット	表示する言語の種類を選択します。

[操作手順]

- 1) [オプション] メニューの [印刷フォントの設定] コマンドをクリックして、[フォント] ダイアログボックスを表示します。
- 2) 印刷に使用するフォント、スタイル、サイズを指定します。
- 3) [OK] ボタンを押してフォントを変更します。

比較リスト - リファレンス

◆[ファイル]メニューのコマンド

[ファイル]メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
印刷(P)	現在の設定で印刷を実行します。
印刷プレビュー(V)	現在の設定で印刷を行った場合の印刷イメージを表示します。
プリンタの設定(R)	システム標準のプリンタの設定ダイアログボックスを呼び出します。
比較リストの終了(X)	比較リストを終了します。

◆ [表示] メニューのコマンド

[表示]メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
差分表示(D)	変更前と変更後を比較して、差分のみを表示します。
全行表示(A)	変更前と変更後ですべての行を表示します。
ステータスバー(S)	ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。ステータスバーが表示されているときは、このコマンド名の横にチェックマークが表示されます。

◆ [オプション] メニューのコマンド

[オプション]メニューには以下のコマンドがあります。

項目	説明
表示フォントの設定(F)	表示用のシステム標準の[フォント]ダイアログボックスを表示します。
印刷フォントの設定(P)	印刷用のシステム標準の[フォント]ダイアログボックスを表示します。
色の設定(C)	[カラー]ダイアログボックスを表示します
表示形式の設定(S)	[表示形式]ダイアログボックスを表示します。